

## 【表紙】

【提出書類】	訂正有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2022年5月12日提出
【発行者名】	三菱UFJ国際投信株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 横川 直
【本店の所在の場所】	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【事務連絡者氏名】	伊藤 晃
【電話番号】	03-6250-4740
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	スマート・クオリティ・オープン（安定型） スマート・クオリティ・オープン（安定成長型） スマート・クオリティ・オープン（成長型）
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	スマート・クオリティ・オープン（安定型） 1兆円を上限とします。 スマート・クオリティ・オープン（安定成長型） 1兆円を上限とします。 スマート・クオリティ・オープン（成長型） 1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2021年11月12日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）について有価証券報告書の提出に伴う関係情報の更新等を行うため、本訂正届出書を提出します。

## 2【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部\_\_は訂正部分を示し、<更新後>に記載している内容は原届出書の更新後の内容を示します。

なお、「第二部 ファンド情報 第1 ファンド状況 5 運用状況」、「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」は原届出書の更新後の内容を記載します。

## 第二部【ファンド情報】

## 第1【ファンドの状況】

## 1【ファンドの性格】

## (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

<更新後>

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式により、信託財産の成長を目指して運用を行います。

信託金の限度額は、各ファンド 5,000億円です。

\* 委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託金の限度額を変更することができます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、以下の商品分類および属性区分に該当します。

商品分類表  
<各ファンド>

単字型・追加型の別	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉となる資産)
単字型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信
		その他資産
		資産複合

(注) 該当する部分を網掛け表示しています。

該当する商品分類の定義について

追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
内外	目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。
資産複合	目論見書又は投資信託約款において、株式、債券および不動産投信(リート)のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とするものをいう。

属性区分表

<各ファンド>

投資対象資産 (実際の組入資産)	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本含む)		
	年2回			
	年4回	日本	ファミリーファンド	あり (フルヘッジ)
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年6回(隔月)	北米		
	年12回(毎月)	欧州		
	日々	アジア		
不動産投信	その他	オセアニア	ファンド・オブ・ファンズ	なし
その他資産(投資信託証券(株式、債券、不動産投信))		中南米		
		アフリカ		
資産複合		中近東 (中東)		
		エマージング		

(注) 該当する部分を網掛け表示しています。

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産(その他資産(投資信託証券))と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産(資産複合)とが異なります。

#### 該当する属性区分の定義について

その他資産 (投資信託証券 (株式、債券、不動産投信))	目論見書又は投資信託約款において、投資信託証券を通じて、主として株式、債券、不動産投信に投資する旨の記載があるものをいう。
年4回	目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。
グローバル (日本含む)	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界(日本を含む)の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファンド・オブ・ファンズ	「投資信託等の運用に関する規則 <sup>*</sup> 」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。
為替ヘッジなし	目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

\* 一般社団法人投資信託協会が定める規則です。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

#### [ ファンドの目的・特色 ]

## ファンドの目的

信託財産の成長を目指して運用を行います。

## ファンドの特色

**特色 1** 世界各国の株式・債券・リートに分散投資を行います。

- ◆投資信託証券への投資を通じて、主として「国内株式」、「国内債券」、「国内リート」、「先進国株式」、「先進国債券」、「先進国リート」、「新興国株式」、「新興国債券」の8資産（以下「8資産」ということがあります。）に分散投資を行います。
- ◆8資産のそれぞれについて、投資対象となる投資信託証券を指定し（以下「指定投資信託証券」といいます。）、その中から選定した投資信託証券に投資します。
- ◆投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。

### 指定投資信託証券（2022年2月末現在）

		投資対象地域		
		日本	先進国	新興国
投資対象資産	株式	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国際JPX日経インデックス400オープン（適格機関投資家専用）</li> <li>●MUAM インデックスファンドTOPIXI（適格機関投資家限定）</li> <li>●日本株式最小分散インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> <li>●iシェアーズMSCI ジャパン高配当利回りETF</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUAM 外国株式インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> <li>●先進国株式最小分散インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> <li>●先進国株式クオリティ・インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●iシェアーズMSCI エマージング・マーケット・ミニマム・ボラティリティ・ファクターETF</li> <li>●iシェアーズMSCI エマージング・マーケットETF</li> <li>●iシェアーズ・コアMSCI エマージング・マーケットETF</li> </ul>
	債券	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUAM 日本債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> <li>●国内物価連動国債インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> <li>●MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUAM 外国債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●iシェアーズJ.P.モルガン・米ドル建てエマージング・マーケット債券ETF</li> <li>●iシェアーズJ.P.モルガン・米ドル建てエマージング・マーケット債券UCITSETF</li> </ul>
	リート	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内リートインデックス・ファンド（適格機関投資家限定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●iシェアーズグローバル・リートETF</li> </ul>	

※指定投資信託証券は定量・定性の評価等を勘案して適宜見直しを行います。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券を指定から外したり、新たに投資信託証券（当ファンド設定以降に設定された投資信託証券も含みます。）を指定投資信託証券として指定する場合があります。

## 特色2

安定型、安定成長型、成長型の3つのファンドから選択できます。

◆お客様のリスク許容度に応じて、以下の目標リスク水準の異なる3つのファンドをご用意しました。

### ＜各ファンドの目標リスク水準＞

- 安定型 : 年率標準偏差 5.0%
  - 安定成長型 : 年率標準偏差 8.0%
  - 成長型 : 年率標準偏差 12.0%
- 目標リスク水準は、各ファンドの変動リスクの目安を表示したもので、各ファンドのポートフォリオを構築する際の目標値として使用します。  
(なお、各ファンドの実際のリスク水準が目標リスク水準を上回る場合や下回る場合があります。)
- ※一般に、リスクが大きい(小さい)ファンドほど期待されるリターンが大きくなる傾向があります。(必ずしもこのような関係にならない場合があります。)
- 各ファンド間でスイッチングが可能です。  
販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。  
【スイッチング】各ファンドを換金した受取金額をもって別の各ファンドの購入の申込みを行うことをいいます。

## 特色3

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部からアドバイスを受け、運用を行います。

◆三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部からのアドバイスを基に、各ファンドについて、8資産の基本資産配分比率を決定し、この比率に基づき、指定投資信託証券の中から選定した投資信託証券に投資を行います。

- 定量・定性の評価等を勘案し、8資産についてそれぞれ期待リターンとリスクを推計のうえ、各ファンドの目標リスク水準において最も期待リターンが高くなると期待される8資産の組み合わせを基本資産配分比率として決定します。
- 基本資産配分比率の決定は、原則として年1回行います。ただし、基本資産配分比率は市況動向等の事情によっては不定期に見直しを行う場合があります。なお、結果として、基本資産配分比率において一部の資産への配分が行われない場合があります。
- 投資信託証券の選定は、投資信託証券の流動性等を勘案して行います。なお、選定する投資信託証券は、適宜見直しを行います。

※上記は、2022年2月末現在の基本資産配分比率の決定プロセスであり、今後、変更される場合があります。

※指定投資信託証券の決定、投資する投資信託証券の選定やリバランス等についても、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部からアドバイスを受けます。

### 【三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部】について

バランス型投信へのアセット・アロケーションのノウハウ提供(投資助言)のほか、個人、年金基金、学校法人、一般事業法人など幅広い顧客との投資一任契約に基づき、資産運用を行っています。

## 特色4

外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

資金動向や市況動向、残存信託期間等の事情によっては、特色1～特色4のような運用ができない場合があります。

## 特色 5 3か月に1回決算を行い、収益の分配を行います。

- ◆毎年2、5、8、11月の13日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

### 収益分配方針

- ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。(ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。)

原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。(資金動向や市況動向等により変更する場合があります。)

- ◆将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。また、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

### 収益分配金に関する留意事項

- ◆分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



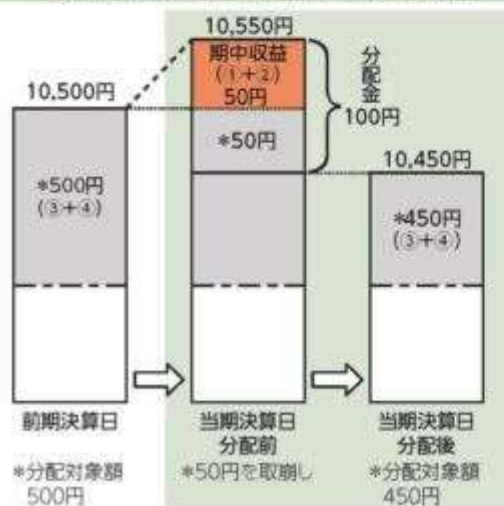
- ◆分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

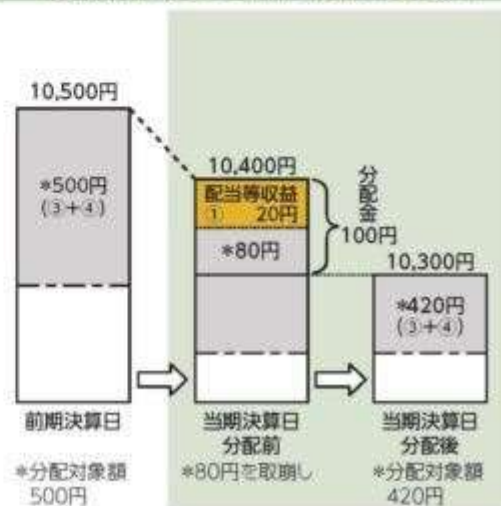
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算日から基準価額が上昇した場合



#### 前期決算日から基準価額が下落した場合



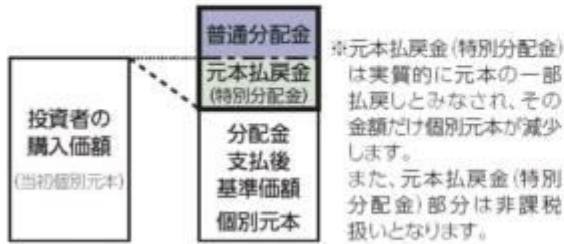
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金: 当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

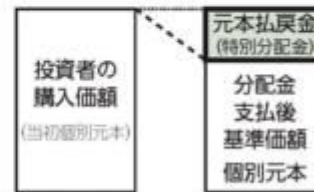
収益調整金: 追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

◆投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合

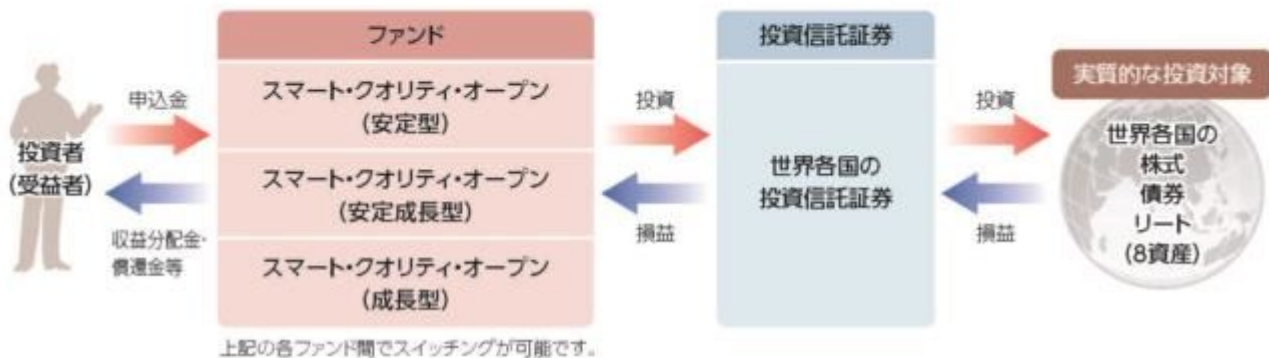


普通分配金:個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金):個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

## ■ ファンドのしくみ

当ファンドは、複数の投資信託証券への投資を通じて、実質的な投資対象へ投資を行うファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。



※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。

## ■ 主な投資制限

投資信託証券への投資	投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
株式への投資	株式への直接投資は行いません。
外貨建資産への投資	外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
同一投資信託証券への投資	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

### (3) 【ファンドの仕組み】

< 訂正前 >

委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
--	----



委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

## 委託会社の概況(2021年8月末現在)

- ・金融商品取引業者登録番号  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
- ・設立年月日  
1985年8月1日
- ・資本金  
2,000百万円
- ・沿革  
1997年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始  
2004年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更  
2005年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更  
2015年7月 三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更
- ・大株主の状況

株主名	住所	所有株式数	所有比率
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	211,581株	100.0%

## &lt;訂正後&gt;

## 委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

## 委託会社の概況(2022年2月末現在)

- ・金融商品取引業者登録番号  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
- ・設立年月日  
1985年8月1日
- ・資本金  
2,000百万円
- ・沿革  
1997年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始

- 2004年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更
- 2005年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更
- 2015年7月 三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更

・大株主の状況

株主名	住所	所有株式数	所有比率
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	211,581株	100.0%

2【投資方針】

(2)【投資対象】

<更新後>

投資信託証券を主要投資対象とします。

投資の対象とする資産の種類

ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）とします。

- a．有価証券
- b．約束手形
- c．金銭債権

運用の指図範囲

委託会社は、信託金を、主として、指定投資信託証券（「（ご参考）指定投資信託証券の概要」をご参照ください。）のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- a．国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）
- b．コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
- c．外国または外国の者の発行する証券または証書で、a．およびb．の証券または証書の性質を有するもの
- d．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

a．の証券およびc．の証券または証書のうちa．の証券の性質を有するものを以下、「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は債券買い現先取引（売戻条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付き債券借入れ）に限り行うことができます。

金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を、前記の有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- a．預金
- b．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- c．コール・ローン
- d．手形割引市場において売買される手形

## 特別な場合の金融商品による運用

前記の規定にかかわらず、ファンドの設定、解約、償還への対応および投資環境の変動等への対応で、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記のa. からd. までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(ご参考)

## ■ 指定投資信託証券の概要

区分	指定投資信託証券の名称	表示通貨	運用会社	信託(管理)報酬率(年率)	ベンチマーク	内容
国内株式	国際JPX日経インデックス400オープン (適格機関投資家専用)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.2200% (税抜0.2000%)	JPX日経 インデックス 400(配当込み)	日本の株式を主要投資対象として、JPX日経インデックス400(配当込み)に連動する運用成果を目指す投資信託です。
	MJAM インデックス ファンドTOPIX (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.1540% (税抜0.1400%)	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	東京証券取引所に上場されている株式を主要投資対象として、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に連動する投資成果を目指す投資信託です。
	日本株式最小分散 インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.2585% (税抜0.2350%)	MSCI 日本株最小分散 指数(配当込み)	日本の金融商品取引所上場株式を主要投資対象として、MSCI日本株最小分散指数(配当込み)に連動する投資成果を目指す投資信託です。
	iシェアーズ MSCI ジャパン高配当利回り ETF (注1)	日本円	ブラックロック・ ジャパン	0.2090% (税抜0.1900%) 以内	MSCI ジャパン 高配当利回り インデックス	日本の株式等を主要投資対象として、MSCIジャパン高配当利回りインデックスに連動する運用成果を目指すETFです。
国内債券	MJAM 日本債券 インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.1540% (税抜0.1400%)	NOMURA- BPI総合	円建の債券等(国債、社債等)を主要投資対象として、NOMURA-BPI総合に連動する運用成果を目指す投資信託です。
	国内物価連動国債 インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.2365% (税抜0.2150%)	NOMURA 物価連動国債 インデックス (フロアあり)	日本の物価連動国債を主要投資対象として、NOMURA 物価連動国債インデックス(フロアあり)に連動する投資成果を目指す投資信託です。
	MJAM 日本超長期 国債インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.1540% (税抜0.1400%)	NOMURA- BPI国債 超長期(11-)	日本の国債を主要投資対象として、NOMURA-BPI国債 超長期(11-)に連動する投資成果を目指す投資信託です。
国内リート	国内リートインデックス・ ファンド (適格機関投資家限定)	日本円	ブラックロック・ ジャパン	0.2090% (税抜0.1900%)	S&P日本REIT 指数 (配当込み)	日本の不動産投資信託証券等を主要投資対象として、S&P日本REIT指数(配当込み)に連動する運用成果を目指す投資信託です。
先進国株式	MJAM 外国株式 インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.2530% (税抜0.2300%)	MSCIコクサイ・ インデックス (配当込み、円 換算ベース)	MSCIコクサイインデックス(配当込み、円換算ベース)に採用されている株式を主要投資対象として、MSCIコクサイインデックス(配当込み、円換算ベース)に連動する投資成果を目指す投資信託です。
	先進国株式最小分散 インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.3300% (税抜0.3000%)	MSCIコクサイ 最小分散指数 (JPY)(配当込 み、円換算ベ ース)	日本を除く先進国の株式を主要投資対象として、MSCIコクサイ最小分散指数(JPY)(配当込み、円換算ベース)に連動する投資成果を目指す投資信託です。
	先進国株式フオリティ・ インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.3300% (税抜0.3000%)	MSCIコクサイ・ フオリティ指 数(配当込み、 円換算ベース)	日本を除く先進国の株式を主要投資対象として、MSCIコクサイフオリティ指数(配当込み、円換算ベース)に連動する投資成果を目指す投資信託です。
先進国債券	MJAM 外国債券 インデックスファンド (適格機関投資家限定)	日本円	三菱UFJ 国際投信	0.2090% (税抜0.1900%)	FTSE世界国債 インデックス (除く日本、 円換算ベース)	日本を除く先進国の国債等を主要投資対象として、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)に連動する運用成果を目指す投資信託です。

区分	指定投資信託証券の名称	表示通貨	運用会社	信託(管理)報酬率(年率)	ベンチマーク	内容
先進国リート	iシェアーズ グローバル・リート ETF	米ドル	ブラックロック・グループ	0.14%	FTSE EPRA Nareit グローバル・リート・インデックス	先進国および新興国の不動産投資信託証券等を主要投資対象として、FTSE EPRA Nareitグローバル・リート・インデックスに連動する運用成果を目指すETFです。
新興国株式	iシェアーズ MSCI エマージング・マーケット・ミニマム・ボラティリティ・ファクター ETF*	米ドル	ブラックロック・グループ	0.75%以内(注2)	MSCI エマージング・マーケット・ミニマム・ボラティリティ・インデックス	新興国の株式等を主要投資対象として、MSCI エマージング・マーケット・ミニマム・ボラティリティ・インデックスに連動する運用成果を目指すETFです。
	iシェアーズ MSCI エマージング・マーケット ETF	米ドル	ブラックロック・グループ	0.75%以内	MSCI エマージング・マーケット・インデックス	新興国の株式等を主要投資対象として、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに連動する運用成果を目指すETFです。
	iシェアーズ・コア MSCI エマージング・マーケット ETF	米ドル	ブラックロック・グループ	0.11%以内(注3)	MSCI エマージング・マーケット・インベスタブル・マーケット・インデックス	新興国の株式等を主要投資対象として、MSCI エマージング・マーケット・インベスタブル・マーケット・インデックスに連動する運用成果を目指すETFです。
新興国債券	iシェアーズ J.P.モルガン・米ドル建て エマージング・マーケット債券 ETF	米ドル	ブラックロック・グループ	0.40%以内	J.P.モルガン EMBIグローバル・コア・インデックス	新興国の米ドル建ての債券等(国債、社債等)を主要投資対象として、J.P.モルガン EMBIグローバル・コア・インデックスに連動する運用成果を目指すETFです。
	iシェアーズ J.P.モルガン・米ドル建て エマージング・マーケット債券 UCITS ETF	米ドル	ブラックロック・グループ	0.45%	J.P.モルガン EMBIグローバル・コア・インデックス	新興国の米ドル建ての債券等(国債、社債等)を主要投資対象として、J.P.モルガン EMBIグローバル・コア・インデックスに連動する運用成果を目指すETFです。

※上記の信託(管理)報酬率は今後変更される場合があります。上記の他、監査費用等の諸費用が別途かかる場合があります。

※上記のiシェアーズの各投資信託証券については、国内における消費税等相当額はかかりません(注1)の投資信託証券を除く。

※\*は国内未届けの投資信託証券であり、日本語名称は、iシェアーズ®の英文正式名称の直訳を示しています。

※(注2)の信託(管理)報酬率は、2023年12月末までの期間については、運用報酬を含む年間総経費率が0.25%を超えないことになっています(終了日は変更される可能性があります)。

※(注3)の信託(管理)報酬率は、2025年12月末までの期間については、0.11%以内となります(終了日は変更される可能性があります)。

※上記は、2022年2月末時点の指定投資信託証券であり、今後変更になる場合があります。

(出所)運用会社の資料を基に三菱UFJ国際投信作成

## ■ 指定投資信託証券の対象指数(ベンチマーク)について

- 「JPX日経インデックス400(配当込み)」(以下「JPX日経インデックス400」といいます。)は、株式会社JPX総研(以下「JPX総研」といいます。)及び株式会社日本経済新聞社(以下「日経」といいます。)によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、JPX総研及び日経は、「JPX日経インデックス400」自体及び「JPX日経インデックス400」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。JPX総研及び日経は、「JPX日経インデックス400」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。ファンドは、委託会社の責任のもとで運用されるものであり、JPX総研及び日経は、その運用及びファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。
- 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- NOMURA-BPI総合とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。  
NOMURA 物価連動国債インデックス(フロアあり)とは、野村證券株式会社が発表している日本国が発行したフロアありの物価連動国債のパフォーマンスインデックスです。  
NOMURA-BPI国債 超長期(11+)とは、野村證券株式会社が発表している日本国が発行した固定利付債(個人向けは対象外)の残存期間11年以上の債券のパフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI国債のサブインデックスです。  
当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- MSCI ジャパン高配当利回りインデックス、MSCIコクサイ・オリティ指数(配当込み、円換算ベース)、MSCI エマージング・マーケット・ミニマム・ボラティリティ・インデックス、MSCI エマージング・マーケット・インデックス、MSCI エマージング・マーケット・インベストアブル・マーケット・インデックス、MSCI日本株最小分散指数(配当込み)、MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)、MSCIコクサイ最小分散指数(IPY)(配当込み、円換算ベース)(出所:MSCI)。ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をMSCIは何ら保証するものではありません。またその著作権はMSCIに帰属しており、その許諾なしにコピーを含む電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。
- FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)は、FTSE世界国債インデックス(除く日本)・データに基づき当社が計算したものです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- J.P. モルガン EMBI グローバル・コア・インデックス情報は、信頼性があると信じられる情報源から取得したものです。J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2015, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.
- S&P日本REIT指数(配当込み)は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス(S&P DJI)の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社に付与されています。S&P DJIは、同指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任を負いません。
- FTSE EPRA Nareitグローバル・リート・インデックスとは、先進国および新興国のリート不動産関連株式の値動きを表す指数です。  
FTSE®は、London Stock Exchange Groupの会社が所有する商標であり、NAREIT®はNational Association of Real Estate Investment Trusts(以下「NAREIT」)が所有する商標であり、そしてEPRA®はEuropean Public Real Estate Association(以下「EPRA」)が所有する商標であり、ライセンス契約に基づき、FTSE International Limited(以下「FTSE」)が使用します。  
当該指数は、FTSEが算出を行います。FTSE, Euronext N.V., NAREIT、もしくはEPRAは、本商品のスポンサー、保証、販売促進を行っており、さらにかいなる形においても本商品に関わっており、一切の責務を負うものではありません。インデックスの価格および構成リストにおける全ての知的財産権はFTSE, Euronext N.V., NAREIT、そしてEPRAに帰属します。

### 3 【投資リスク】

#### <更新後>

#### (1) 投資リスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

(主なリスクであり、以下に限定されるものではありません。)

#### 価格変動リスク

- ・ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的には株式を投資対象とする場合が

あります。株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すればファンドの基準価額の変動要因となります。

- ・ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的にはリートを投資対象とする場合があります。リートの価格は当該リートが組入れている不動産等の価値や賃料等に加え、様々な市場環境等の影響を受けます。リートの価格が変動すればファンドの基準価額の変動要因となります。

#### 金利変動リスク

- ・ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的には債券を投資対象とする場合があります。投資対象としている債券の発行通貨の金利水準が上昇（低下）した場合には、一般的に債券価格は下落（上昇）し、ファンドの基準価額の変動要因となります。また、組入債券の残存期間や利率等も価格変動に影響を与えます。例えば、残存期間の長い債券は金利変動に対する債券価格の感応度が高く、価格変動が大きくなる傾向があります。
- ・金利上昇時には実質的に投資しているリートの配当利回りの相対的な魅力が弱まるため、リートの価格が下落してファンドの基準価額の下落要因となることがあります。また、リートが資金調達を行う場合、金利上昇時には借入金負担が大きくなるため、リートの価格や配当率が下落し、ファンドの基準価額の下落要因となることがあります。

#### 為替変動リスク

ファンドは、外貨建の投資信託証券に投資を行う場合や、投資信託証券を通じて、実質的には外貨建資産に投資を行う場合があります。投資対象としている有価証券の発行通貨が円に対して強く（円安に）なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く（円高に）なればファンドの基準価額の下落要因となります。

#### 信用リスク（デフォルト・リスク）

投資信託証券への投資を通じて、実質的に投資している有価証券等の発行体の倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、ファンドの基準価額は下落し、損失を被ることがあります。

#### カントリー・リスク

ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的には新興国の株式および債券を投資対象とする場合があります。新興国の政治や経済、社会情勢等の変化（カントリー・リスク）により金融・証券市場が混乱して、価格が大きく変動する可能性があります。新興国のカントリー・リスクとしては主に以下の点が挙げられます。

- ・先進国と比較して経済が一般的に脆弱であると考えられ、経済成長率やインフレ率等の経済状況が著しく変化する可能性があります。
- ・政治不安や社会不安、他国との外交関係の悪化により海外からの投資に対する規制導入等の可能性があります。
- ・海外との資金移動に関する規制導入等の可能性があります。
- ・先進国とは情報開示に係る制度や慣習等が異なる場合があります。

この結果、新興国の株式および債券への投資が著しく悪影響を受ける可能性があります。

#### 流動性リスク

- ・有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいはファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合にはファンドの基準価額の下落要因となります。
- ・一般的に、金融商品取引所上場の投資信託証券、およびリートや新興国の株式・債券は、市場規模や証券取引量が小さく、投資環境によっては機動的な売買が行えないことがあります。

カウンターパーティー・リスク（取引相手先の決済不履行リスク）

証券取引、為替取引等の相対取引においては、取引相手先の決済不履行リスクが伴います。

その他の主な留意点

- a. 指定投資信託証券がベンチマークとしているインデックス（対象指数）が改廃された場合、当該指定投資信託証券の組入れを見直す場合があります。
- b. 各ファンドについて、受益権の総口数が当初設定に係る受益権総口数の10分の1または10億口を下ることとなった場合等には、信託期間中であっても償還されることがあります。
- c. 法令、税制および会計制度等は、今後変更される可能性があります。
- d. 各ファンドの信託財産の資金管理を円滑に行うため、原則として1日1件5億円を超える換金が行えないものとします。また、市況動向等により、これ以外にも大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
- e. 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- f. 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

## (2) 投資リスクに対する管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、運用管理委員会において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。運用管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

具体的な、投資リスクに対するリスク管理体制は以下の通りです。

トレーディング担当部署

有価証券等の売買執行および発注に係る法令等の遵守および監視・牽制を行います。

コンプライアンス担当部署

法令上の禁止行為、約款の投資制限等のモニタリングを通じ、法令等遵守状況を把握・管理し、必要に応じて改善の指導を行います。

リスク管理担当部署

運用リスク全般の状況をモニタリング・管理するとともに、運用実績の分析および評価を行い、必要に応じて改善策等を提言します。また、事務・情報資産・その他のリスクの統括的管理を行っています。

内部監査担当部署

委託会社のすべての業務から独立した立場より、リスク管理体制の適切性および有効性について評価を行い、改善策の提案等を通して、リスク管理機能の維持・向上をはかります。

\* 組織変更等により、前記の名称および内容は変更となる場合があります。

## ■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

### 安定型

#### ● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移



#### ● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したもものとして計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

### 安定成長型

#### ● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移



#### ● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したもものとして計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。



## 成長型



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

## 代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村証券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 4【手数料等及び税金】

## (3)【信託報酬等】

< 訂正前 >

- a. 信託報酬の総額は、各ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、次に掲げる率を乗じて得た額とし、日々各ファンドの基準価額に反映されます。信託報酬は消費税等相当額を含みます。

	信託報酬率
安定型	年1.430%（税抜 1.300%）
安定成長型	年1.540%（税抜 1.400%）
成長型	年1.650%（税抜 1.500%）

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 ×（保有日数 / 365）

上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- b. 信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

	配分（税抜）			対価として提供する役務の内容
	安定型	安定成長型	成長型	
委託会社	0.570%	0.620%	0.670%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.700%	0.750%	0.800%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.030%	0.030%	0.030%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

前記の他に各ファンドが投資対象とする指定投資信託証券に関しても信託（管理）報酬等がかかります。

受益者が負担する実質的な信託報酬率は、以下の通りです。

	実質的な信託報酬率
安定型	年率1.680% ± 0.10%程度（税込）
安定成長型	年率1.790% ± 0.10%程度（税込）
成長型	年率1.900% ± 0.10%程度（税込）

実質的な信託報酬率は、各ファンドが投資対象とする投資信託証券における信託（管理）報酬率を含めた実質的な信託報酬率を、各ファンドの資産配分比率に基づき算出したものです（2021年8月末現在）。各投資信託証券への投資比率が変動する可能性や投資信託証券の変更の可能性があることなどから、実質的な信託報酬率は変動することがあり、あらかじめ上限額等を記載することができません。そのため、「実質的な信託報酬率」は概算で表示しています。

各ファンドが投資対象とする指定投資信託証券の信託（管理）報酬率の詳細については、「（ご参考）指定投資信託証券の概要」をご参照ください。

< 訂正後 >

- a. 信託報酬の総額は、各ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、次に掲げる率を乗じて得た額とし、日々各ファンドの基準価額に反映されます。信託報酬は消費税等相当額を含みます。

	信託報酬率
安定型	年1.430%（税抜 1.300%）
安定成長型	年1.540%（税抜 1.400%）
成長型	年1.650%（税抜 1.500%）

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 ×（保有日数 / 365）

上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

b. 信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。  
信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

	配分（税抜）			対価として提供する役務の内容
	安定型	安定成長型	成長型	
委託会社	0.570%	0.620%	0.670%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.700%	0.750%	0.800%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.030%	0.030%	0.030%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

前記の他に各ファンドが投資対象とする指定投資信託証券に関しても信託（管理）報酬等がかかります。

受益者が負担する実質的な信託報酬率は、以下の通りです。

	実質的な信託報酬率
安定型	年率1.680% ± 0.10%程度（税込）
安定成長型	年率1.790% ± 0.10%程度（税込）
成長型	年率1.900% ± 0.10%程度（税込）

実質的な信託報酬率は、各ファンドが投資対象とする投資信託証券における信託（管理）報酬率を含めた実質的な信託報酬率を、各ファンドの資産配分比率に基づき算出したものです（2022年2月末現在）。各投資信託証券への投資比率が変動する可能性や投資信託証券の変更の可能性があることなどから、実質的な信託報酬率は変動することがあり、あらかじめ上限額等を記載することができません。そのため、「実質的な信託報酬率」は概算で表示しています。

各ファンドが投資対象とする指定投資信託証券の信託（管理）報酬率の詳細については、「（ご参考）指定投資信託証券の概要」をご参照ください。

## （5）【課税上の取扱い】

< 訂正前 >

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

## 1. 収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除は適用されません。）・申告分離課税を選択することもできます。

## 2. 解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限り、）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、確定拠出年金制度を通じて公募株式投資信託などを購入する場合は、NISAおよびジュニアNISAをご利用になれません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

### 法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

### 個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

### 収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別

元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

上記は2021年8月末現在のもので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

#### <訂正後>

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

##### 個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

##### 1. 収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除は適用されません。）・申告分離課税を選択することもできます。

##### 2. 解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、確定拠出年金制度を通じて公募株式投資信託などを購入する場合は、NISAおよびジュニアNISAをご利用になれません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

##### 法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%（所得税15%、復興特別所得

税0.315%)の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

#### 個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

#### 収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

上記は2022年2月末現在のもので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

### 【スマート・クオリティ・オープン（安定型）】

#### （1）【投資状況】

令和 4年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	73,264,054,547	96.34
投資証券	アメリカ	1,558,281,057	2.05
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		1,227,391,500	1.61

純資産総額	76,049,727,104	100.00
-------	----------------	--------

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

## （２）【投資資産】

### 【投資有価証券の主要銘柄】

#### a 評価額上位30銘柄

令和4年2月28日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
日本	投資信託受益証券	MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	22,986,831,105	1.2287	28,243,919,378	1.2276	28,218,633,864	37.11
日本	投資信託受益証券	MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	12,729,254,342	0.9722	12,375,381,071	0.9691	12,335,920,382	16.22
日本	投資信託受益証券	国内物価連動国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	9,613,855,965	0.9892	9,510,026,320	0.9943	9,559,056,985	12.57
日本	投資信託受益証券	MUAM 外国株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	1,999,813,557	3.0217	6,042,836,625	2.8144	5,628,275,274	7.40
日本	投資信託受益証券	日本株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	3,749,493,345	1.3939	5,226,418,773	1.3412	5,028,820,474	6.61
日本	投資信託受益証券	MUAM インデックスファンドTOPIXi(適格機関投資家限定)	3,071,665,569	1.7183	5,278,044,636	1.6312	5,010,500,876	6.59
日本	投資信託受益証券	先進国株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	1,701,275,902	1.7935	3,051,238,330	1.6998	2,891,828,778	3.80
日本	投資信託受益証券	先進国株式クオリティ・インデックスファンド(適格機関投資家限定)	1,476,093,023	1.8867	2,784,944,706	1.759	2,596,447,627	3.41
日本	投資信託受益証券	MUAM 外国債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	1,127,306,128	1.4814	1,669,991,298	1.4638	1,650,150,710	2.17
アメリカ	投資証券	ISHARES JPM USD EM BND USD A	1,181,500	652.97	771,487,659	637.37	753,057,145	0.99
アメリカ	投資証券	ISHARES MSCI EMG MKT MIN VOL	48,267	7,253.07	350,084,098	7,236.89	349,303,283	0.46
日本	投資信託受益証券	国内リートインデックス・ファンド(適格機関投資家限定)	250,159,484	1.4211	355,501,642	1.3768	344,419,577	0.45
アメリカ	投資証券	ISHARES MSCI EMERGING MARKET	59,836	5,629.59	336,852,506	5,471.29	327,380,258	0.43
アメリカ	投資証券	ISHARES GLOBAL REIT ETF	39,336	3,223.84	126,813,167	3,267.75	128,540,371	0.17

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

#### b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和4年2月28日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	96.34
投資証券	2.05
合計	98.39

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和4年2月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成27年 2月13日)	40,501,494,646	40,955,102,592	10,000	10,112
第2計算期間末日 (平成27年 5月13日)	71,158,737,862	71,742,217,335	10,000	10,082
第3計算期間末日 (平成27年 8月13日)	96,019,283,968	97,075,418,400	10,001	10,111
第4計算期間末日 (平成27年11月13日)	102,665,342,665	102,665,342,665	9,906	9,906
第5計算期間末日 (平成28年 2月15日)	103,756,331,003	103,756,331,003	9,483	9,483
第6計算期間末日 (平成28年 5月13日)	104,228,049,396	104,228,049,396	9,871	9,871
第7計算期間末日 (平成28年 8月15日)	95,706,984,445	95,706,984,445	9,780	9,780
第8計算期間末日 (平成28年11月14日)	85,914,140,071	85,914,140,071	9,716	9,716
第9計算期間末日 (平成29年 2月13日)	75,192,479,040	75,192,479,040	9,905	9,905
第10計算期間末日 (平成29年 5月15日)	69,044,352,584	69,348,160,442	10,000	10,044
第11計算期間末日 (平成29年 8月14日)	69,372,057,220	69,372,057,220	9,992	9,992
第12計算期間末日 (平成29年11月13日)	73,391,958,511	75,219,492,620	10,000	10,249
第13計算期間末日 (平成30年 2月13日)	88,132,547,756	88,132,547,756	9,823	9,823
第14計算期間末日 (平成30年 5月14日)	96,608,980,403	96,608,980,403	9,986	9,986
第15計算期間末日 (平成30年 8月13日)	96,393,851,522	96,393,851,522	9,930	9,930
第16計算期間末日 (平成30年11月13日)	97,184,157,014	97,184,157,014	9,889	9,889
第17計算期間末日 (平成31年 2月13日)	96,144,250,828	96,144,250,828	9,853	9,853
第18計算期間末日 (令和 1年 5月13日)	93,420,746,985	93,420,746,985	9,920	9,920
第19計算期間末日 (令和 1年 8月13日)	91,554,172,093	91,728,125,098	10,000	10,019
第20計算期間末日 (令和 1年11月13日)	86,381,829,145	87,712,159,521	10,000	10,154
第21計算期間末日 (令和 2年 2月13日)	86,337,478,549	88,055,522,554	10,000	10,199
第22計算期間末日 (令和 2年 5月13日)	81,437,203,503	81,437,203,503	9,199	9,199
第23計算期間末日 (令和 2年 8月13日)	83,495,567,418	83,495,567,418	9,382	9,382
第24計算期間末日 (令和 2年11月13日)	84,263,162,596	84,263,162,596	9,527	9,527
第25計算期間末日 (令和 3年 2月15日)	83,946,587,583	83,946,587,583	9,752	9,752
第26計算期間末日 (令和 3年 5月13日)	82,789,940,764	82,789,940,764	9,868	9,868
第27計算期間末日 (令和 3年 8月13日)	82,522,813,298	83,273,746,159	10,000	10,091
第28計算期間末日 (令和 3年11月15日)	80,600,211,322	81,736,635,890	10,000	10,141



第29計算期間末日 (令和 4年 2月14日)	77,514,899,991	77,514,899,991	9,761	9,761
令和 3年 2月末日	83,200,853,578		9,701	
3月末日	83,755,906,547		9,892	
4月末日	83,101,397,496		9,896	
5月末日	83,425,823,402		9,964	
6月末日	83,354,092,602		10,025	
7月末日	83,015,322,023		10,055	
8月末日	82,441,469,378		10,017	
9月末日	81,235,719,480		9,999	
10月末日	81,485,884,400		10,073	
11月末日	79,620,699,177		9,879	
12月末日	79,701,988,918		9,991	
令和 4年 1月末日	77,054,073,002		9,697	
2月末日	76,049,727,104		9,597	

## 【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	112円
第2計算期間	82円
第3計算期間	110円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円
第6計算期間	0円
第7計算期間	0円
第8計算期間	0円
第9計算期間	0円
第10計算期間	44円
第11計算期間	0円
第12計算期間	249円
第13計算期間	0円
第14計算期間	0円
第15計算期間	0円
第16計算期間	0円
第17計算期間	0円
第18計算期間	0円
第19計算期間	19円
第20計算期間	154円
第21計算期間	199円
第22計算期間	0円
第23計算期間	0円
第24計算期間	0円

第25計算期間	0円
第26計算期間	0円
第27計算期間	91円
第28計算期間	141円
第29計算期間	0円

## 【収益率の推移】

	収益率（％）
第1計算期間	1.12
第2計算期間	0.82
第3計算期間	1.11
第4計算期間	0.94
第5計算期間	4.27
第6計算期間	4.09
第7計算期間	0.92
第8計算期間	0.65
第9計算期間	1.94
第10計算期間	1.40
第11計算期間	0.08
第12計算期間	2.57
第13計算期間	1.77
第14計算期間	1.65
第15計算期間	0.56
第16計算期間	0.41
第17計算期間	0.36
第18計算期間	0.67
第19計算期間	0.99
第20計算期間	1.54
第21計算期間	1.99
第22計算期間	8.01
第23計算期間	1.98
第24計算期間	1.54
第25計算期間	2.36
第26計算期間	1.18
第27計算期間	2.25
第28計算期間	1.41
第29計算期間	2.39

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

## （４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	41,276,745,303	776,035,798	40,500,709,505
第2計算期間	33,298,485,883	2,643,162,040	71,156,033,348
第3計算期間	31,026,448,870	6,170,261,081	96,012,221,137
第4計算期間	17,665,875,093	10,036,381,902	103,641,714,328
第5計算期間	14,629,217,684	8,853,084,023	109,417,847,989
第6計算期間	6,837,054,395	10,664,900,636	105,590,001,748
第7計算期間	4,947,712,652	12,677,885,201	97,859,829,199
第8計算期間	3,532,448,430	12,967,528,216	88,424,749,413
第9計算期間	5,144,625,349	17,656,724,710	75,912,650,052
第10計算期間	7,384,873,973	14,250,283,393	69,047,240,632
第11計算期間	12,052,583,672	11,669,811,026	69,430,013,278
第12計算期間	15,211,428,650	11,246,497,774	73,394,944,154
第13計算期間	22,564,214,223	6,242,333,114	89,716,825,263
第14計算期間	12,120,331,282	5,091,361,697	96,745,794,848
第15計算期間	9,466,144,463	9,143,101,354	97,068,837,957
第16計算期間	6,367,842,122	5,159,979,457	98,276,700,622
第17計算期間	3,000,659,318	3,696,295,085	97,581,064,855
第18計算期間	3,052,614,946	6,456,136,099	94,177,543,702
第19計算期間	2,567,784,957	5,191,115,326	91,554,213,333
第20計算期間	2,120,349,151	7,289,473,075	86,385,089,409
第21計算期間	3,538,362,790	3,589,582,590	86,333,869,609
第22計算期間	3,881,901,354	1,683,125,912	88,532,645,051
第23計算期間	1,807,541,134	1,348,606,985	88,991,579,200
第24計算期間	2,157,006,722	2,702,540,030	88,446,045,892
第25計算期間	1,972,809,552	4,338,379,723	86,080,475,721
第26計算期間	1,641,456,693	3,826,872,350	83,895,060,064
第27計算期間	1,999,092,846	3,374,058,187	82,520,094,723
第28計算期間	1,936,745,661	3,859,353,233	80,597,487,151
第29計算期間	1,859,450,013	3,047,948,650	79,408,988,514

## 【スマート・クオリティ・オープン（安定成長型）】

## （１）【投資状況】

令和 4年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率（％）
投資信託受益証券	日本	17,112,854,613	93.43
投資証券	アメリカ	911,037,772	4.97
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		292,786,940	1.60

純資産総額	18,316,679,325	100.00
-------	----------------	--------

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

## （２）【投資資産】

### 【投資有価証券の主要銘柄】

#### a 評価額上位30銘柄

令和4年2月28日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
日本	投資信託受益証券	MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	3,935,688,575	1.2287	4,835,780,552	1.2276	4,831,451,294	26.38
日本	投資信託受益証券	MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	2,206,204,699	0.9722	2,144,872,208	0.9691	2,138,032,973	11.67
日本	投資信託受益証券	MUAM 外国株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	733,630,427	3.0217	2,216,811,061	2.8144	2,064,729,473	11.27
日本	投資信託受益証券	日本株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	1,403,429,969	1.3939	1,956,241,033	1.3412	1,882,280,274	10.28
日本	投資信託受益証券	MUAM インデックスファンドTOPIXi(適格機関投資家限定)	1,150,052,545	1.7183	1,976,135,919	1.6312	1,875,965,711	10.24
日本	投資信託受益証券	国内物価連動国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	1,647,550,123	0.9892	1,629,756,581	0.9943	1,638,159,087	8.94
日本	投資信託受益証券	先進国株式オリティ・インデックスファンド(適格機関投資家限定)	595,883,603	1.8867	1,124,253,593	1.759	1,048,159,257	5.72
日本	投資信託受益証券	先進国株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	612,987,267	1.7935	1,099,392,663	1.6998	1,041,955,756	5.69
日本	投資信託受益証券	MUAM 外国債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	247,363,935	1.4814	366,444,933	1.4638	362,091,328	1.98
アメリカ	投資証券	ISHARES JPM USD EM BND USD A	467,500	652.97	305,264,900	637.37	297,972,251	1.63
アメリカ	投資証券	ISHARES MSCI EMG MKT MIN VOL	35,764	7,253.07	259,398,920	7,236.89	258,820,366	1.41
アメリカ	投資証券	ISHARES MSCI EMERGING MARKET	45,158	5,629.59	254,221,297	5,471.29	247,072,627	1.35
日本	投資信託受益証券	国内リートインデックス・ファンド(適格機関投資家限定)	167,075,436	1.4211	237,430,902	1.3768	230,029,460	1.26
アメリカ	投資証券	ISHARES GLOBAL REIT ETF	32,797	3,223.84	105,732,445	3,267.75	107,172,528	0.59

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

#### b 全銘柄の種類/業種別投資比率

令和4年2月28日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	93.43
投資証券	4.97
合計	98.40

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和4年2月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成27年 2月13日)	4,987,004,837	5,088,231,871	10,001	10,204
第2計算期間末日 (平成27年 5月13日)	9,976,666,885	10,147,262,590	10,000	10,171
第3計算期間末日 (平成27年 8月13日)	16,907,453,550	17,145,825,773	10,001	10,142
第4計算期間末日 (平成27年11月13日)	20,501,984,005	20,501,984,005	9,826	9,826
第5計算期間末日 (平成28年 2月15日)	20,906,424,707	20,906,424,707	9,015	9,015
第6計算期間末日 (平成28年 5月13日)	21,999,557,641	21,999,557,641	9,492	9,492
第7計算期間末日 (平成28年 8月15日)	21,581,152,293	21,581,152,293	9,378	9,378
第8計算期間末日 (平成28年11月14日)	20,341,147,755	20,341,147,755	9,344	9,344
第9計算期間末日 (平成29年 2月13日)	19,165,359,776	19,165,359,776	9,788	9,788
第10計算期間末日 (平成29年 5月15日)	18,636,256,749	18,645,574,518	10,000	10,005
第11計算期間末日 (平成29年 8月14日)	17,258,930,603	17,258,930,603	9,998	9,998
第12計算期間末日 (平成29年11月13日)	16,390,155,724	17,058,871,690	10,000	10,408
第13計算期間末日 (平成30年 2月13日)	18,427,573,546	18,427,573,546	9,736	9,736
第14計算期間末日 (平成30年 5月14日)	19,994,986,537	19,994,986,537	9,981	9,981
第15計算期間末日 (平成30年 8月13日)	19,659,362,985	19,659,362,985	9,965	9,965
第16計算期間末日 (平成30年11月13日)	20,763,624,674	20,763,624,674	9,923	9,923
第17計算期間末日 (平成31年 2月13日)	20,642,855,179	20,642,855,179	9,786	9,786
第18計算期間末日 (令和 1年 5月13日)	20,101,879,279	20,101,879,279	9,881	9,881
第19計算期間末日 (令和 1年 8月13日)	20,065,471,660	20,065,471,660	9,917	9,917
第20計算期間末日 (令和 1年11月13日)	19,143,118,141	19,732,744,045	10,000	10,308
第21計算期間末日 (令和 2年 2月13日)	19,208,732,457	19,792,698,482	10,000	10,304
第22計算期間末日 (令和 2年 5月13日)	17,515,426,801	17,515,426,801	8,905	8,905
第23計算期間末日 (令和 2年 8月13日)	18,331,328,114	18,331,328,114	9,264	9,264
第24計算期間末日 (令和 2年11月13日)	18,758,115,415	18,758,115,415	9,507	9,507
第25計算期間末日 (令和 3年 2月15日)	19,136,367,605	19,136,367,605	9,901	9,901
第26計算期間末日 (令和 3年 5月13日)	19,114,623,150	19,273,268,766	10,000	10,083
第27計算期間末日 (令和 3年 8月13日)	19,227,146,739	19,892,401,928	10,000	10,346
第28計算期間末日 (令和 3年11月15日)	19,473,655,731	19,937,130,699	10,000	10,238

第29計算期間末日 (令和 4年 2月14日)	18,781,703,660	18,781,703,660	9,741	9,741
令和 3年 2月末日	19,040,909,491		9,870	
3月末日	19,492,733,103		10,129	
4月末日	19,365,462,266		10,140	
5月末日	19,476,071,569		10,153	
6月末日	19,693,244,001		10,255	
7月末日	19,737,778,721		10,282	
8月末日	19,550,540,238		10,028	
9月末日	19,546,341,617		10,019	
10月末日	19,791,191,398		10,141	
11月末日	19,271,079,067		9,823	
12月末日	19,543,105,085		9,994	
令和 4年 1月末日	18,615,502,877		9,585	
2月末日	18,316,679,325		9,490	

## 【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	203円
第2計算期間	171円
第3計算期間	141円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円
第6計算期間	0円
第7計算期間	0円
第8計算期間	0円
第9計算期間	0円
第10計算期間	5円
第11計算期間	0円
第12計算期間	408円
第13計算期間	0円
第14計算期間	0円
第15計算期間	0円
第16計算期間	0円
第17計算期間	0円
第18計算期間	0円
第19計算期間	0円
第20計算期間	308円
第21計算期間	304円
第22計算期間	0円
第23計算期間	0円
第24計算期間	0円

第25計算期間	0円
第26計算期間	83円
第27計算期間	346円
第28計算期間	238円
第29計算期間	0円

## 【収益率の推移】

	収益率（％）
第1計算期間	2.04
第2計算期間	1.69
第3計算期間	1.42
第4計算期間	1.74
第5計算期間	8.25
第6計算期間	5.29
第7計算期間	1.20
第8計算期間	0.36
第9計算期間	4.75
第10計算期間	2.21
第11計算期間	0.02
第12計算期間	4.10
第13計算期間	2.64
第14計算期間	2.51
第15計算期間	0.16
第16計算期間	0.42
第17計算期間	1.38
第18計算期間	0.97
第19計算期間	0.36
第20計算期間	3.94
第21計算期間	3.04
第22計算期間	10.95
第23計算期間	4.03
第24計算期間	2.62
第25計算期間	4.14
第26計算期間	1.83
第27計算期間	3.46
第28計算期間	2.38
第29計算期間	2.59

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配額の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配額の額）を控除した額を当該基準価額（分配額の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

## （４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	5,004,031,814	17,478,392	4,986,553,422
第2計算期間	5,198,561,354	208,757,727	9,976,357,049
第3計算期間	7,644,166,485	714,692,093	16,905,831,441
第4計算期間	5,150,984,571	1,190,776,736	20,866,039,276
第5計算期間	3,563,492,072	1,238,260,231	23,191,271,117
第6計算期間	1,275,820,677	1,289,888,505	23,177,203,289
第7計算期間	1,134,233,450	1,299,836,866	23,011,599,873
第8計算期間	514,098,797	1,755,579,102	21,770,119,568
第9計算期間	769,808,987	2,959,018,028	19,580,910,527
第10計算期間	1,336,998,187	2,282,369,676	18,635,539,038
第11計算期間	1,682,261,339	3,055,993,219	17,261,807,158
第12計算期間	1,894,037,748	2,765,747,697	16,390,097,209
第13計算期間	3,818,841,004	1,281,425,932	18,927,512,281
第14計算期間	1,845,110,431	738,781,592	20,033,841,120
第15計算期間	1,153,417,402	1,458,818,596	19,728,439,926
第16計算期間	2,442,450,091	1,245,561,809	20,925,328,208
第17計算期間	831,681,176	661,872,874	21,095,136,510
第18計算期間	1,180,195,545	1,931,743,497	20,343,588,558
第19計算期間	801,278,755	911,233,364	20,233,633,949
第20計算期間	518,468,928	1,608,404,665	19,143,698,212
第21計算期間	1,431,546,111	1,365,835,581	19,209,408,742
第22計算期間	1,093,089,190	632,336,350	19,670,161,582
第23計算期間	594,718,398	478,095,921	19,786,784,059
第24計算期間	657,567,967	713,004,212	19,731,347,814
第25計算期間	655,677,399	1,060,034,114	19,326,991,099
第26計算期間	661,527,028	874,588,477	19,113,929,650
第27計算期間	756,496,002	643,397,048	19,227,028,604
第28計算期間	960,288,060	713,578,491	19,473,738,173
第29計算期間	704,470,070	896,576,370	19,281,631,873

## 【スマート・クオリティ・オープン（成長型）】

## （１）【投資状況】

令和 4年 2月28日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率（％）
投資信託受益証券	日本	7,999,121,140	89.95
投資証券	アメリカ	726,198,694	8.17
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		167,766,141	1.88



純資産総額	8,893,085,975	100.00
-------	---------------	--------

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

## （２）【投資資産】

### 【投資有価証券の主要銘柄】

#### a 評価額上位30銘柄

令和4年2月28日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
日本	投資信託受益証券	MUAM 外国株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	523,669,931	3.0217	1,582,373,430	2.8144	1,473,816,653	16.57
日本	投資信託受益証券	日本株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	962,203,394	1.3939	1,341,215,310	1.3412	1,290,507,192	14.51
日本	投資信託受益証券	MUAM インデックスファンドTOPIXi(適格機関投資家限定)	786,985,886	1.7183	1,352,277,847	1.6312	1,283,731,377	14.44
日本	投資信託受益証券	MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	916,854,779	1.2286	1,126,454,734	1.2276	1,125,530,926	12.66
日本	投資信託受益証券	先進国株式オロリティ・インデックスファンド(適格機関投資家限定)	434,398,669	1.8867	819,579,968	1.759	764,107,258	8.59
日本	投資信託受益証券	先進国株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	446,179,263	1.7935	800,222,508	1.6998	758,415,511	8.53
日本	投資信託受益証券	MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	520,866,573	0.9722	506,386,482	0.9691	504,771,795	5.68
日本	投資信託受益証券	国内物価連動国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	407,407,729	0.9892	403,007,725	0.9943	405,085,504	4.56
アメリカ	投資証券	ISHARES JPM USD EM BND USD A	349,000	652.97	227,887,594	637.37	222,443,456	2.50
日本	投資信託受益証券	国内リートインデックス・ファンド(適格機関投資家限定)	152,651,401	1.4211	216,932,905	1.3768	210,170,448	2.36
アメリカ	投資証券	ISHARES MSCI EMG MKT MIN VOL	28,201	7,253.07	204,543,926	7,236.89	204,087,718	2.29
アメリカ	投資証券	ISHARES MSCI EMERGING MARKET	35,602	5,629.59	200,424,876	5,471.29	194,788,955	2.19
日本	投資信託受益証券	MUAM 外国債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	125,006,474	1.4814	185,184,590	1.4638	182,984,476	2.06
アメリカ	投資証券	ISHARES GLOBAL REIT ETF	32,095	3,223.84	103,469,306	3,267.75	104,878,565	1.18

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

#### b 全銘柄の種類/業種別投資比率

令和4年2月28日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	89.95
投資証券	8.17
合計	98.11

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和4年2月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成27年 2月13日)	4,170,331,230	4,299,183,674	10,001	10,310
第2計算期間末日 (平成27年 5月13日)	6,662,646,171	6,851,863,946	10,000	10,284
第3計算期間末日 (平成27年 8月13日)	12,236,579,306	12,462,943,975	10,001	10,186
第4計算期間末日 (平成27年11月13日)	15,155,245,372	15,155,245,372	9,728	9,728
第5計算期間末日 (平成28年 2月15日)	14,529,559,835	14,529,559,835	8,482	8,482
第6計算期間末日 (平成28年 5月13日)	15,621,098,597	15,621,098,597	9,049	9,049
第7計算期間末日 (平成28年 8月15日)	14,540,820,270	14,540,820,270	8,905	8,905
第8計算期間末日 (平成28年11月14日)	13,827,688,739	13,827,688,739	8,905	8,905
第9計算期間末日 (平成29年 2月13日)	13,351,049,122	13,351,049,122	9,641	9,641
第10計算期間末日 (平成29年 5月15日)	12,348,925,869	12,348,925,869	9,949	9,949
第11計算期間末日 (平成29年 8月14日)	10,072,434,476	10,072,434,476	9,948	9,948
第12計算期間末日 (平成29年11月13日)	8,791,707,924	9,266,452,814	10,000	10,540
第13計算期間末日 (平成30年 2月13日)	9,466,784,790	9,466,784,790	9,617	9,617
第14計算期間末日 (平成30年 5月14日)	10,222,610,263	10,222,610,263	9,967	9,967
第15計算期間末日 (平成30年 8月13日)	9,918,910,107	9,924,861,246	10,000	10,006
第16計算期間末日 (平成30年11月13日)	10,141,390,271	10,141,390,271	9,948	9,948
第17計算期間末日 (平成31年 2月13日)	10,146,041,202	10,146,041,202	9,683	9,683
第18計算期間末日 (令和 1年 5月13日)	9,640,644,902	9,640,644,902	9,826	9,826
第19計算期間末日 (令和 1年 8月13日)	9,382,596,430	9,382,596,430	9,793	9,793
第20計算期間末日 (令和 1年11月13日)	8,894,099,580	9,323,698,145	10,000	10,483
第21計算期間末日 (令和 2年 2月13日)	9,147,961,628	9,545,915,083	10,000	10,435
第22計算期間末日 (令和 2年 5月13日)	8,308,605,943	8,308,605,943	8,492	8,492
第23計算期間末日 (令和 2年 8月13日)	9,014,621,761	9,014,621,761	9,046	9,046
第24計算期間末日 (令和 2年11月13日)	9,172,093,745	9,172,093,745	9,412	9,412
第25計算期間末日 (令和 3年 2月15日)	9,230,703,510	9,230,703,510	9,999	9,999
第26計算期間末日 (令和 3年 5月13日)	8,827,309,393	9,064,770,932	10,000	10,269
第27計算期間末日 (令和 3年 8月13日)	9,042,357,783	9,484,517,935	10,000	10,489
第28計算期間末日 (令和 3年11月15日)	9,406,259,050	9,739,231,907	10,000	10,354

第29計算期間末日 (令和 4年 2月14日)	9,293,520,711	9,293,520,711	9,731	9,731
令和 3年 2月末日	9,121,596,687		9,993	
3月末日	9,242,654,279		10,338	
4月末日	9,147,859,431		10,358	
5月末日	9,186,829,180		10,222	
6月末日	9,412,640,493		10,373	
7月末日	9,450,300,781		10,395	
8月末日	9,297,820,997		10,041	
9月末日	9,444,439,039		10,043	
10月末日	9,675,449,659		10,223	
11月末日	9,367,184,601		9,762	
12月末日	9,662,846,488		10,012	
令和 4年 1月末日	9,127,501,242		9,463	
2月末日	8,893,085,975		9,370	

## 【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	309円
第2計算期間	284円
第3計算期間	185円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円
第6計算期間	0円
第7計算期間	0円
第8計算期間	0円
第9計算期間	0円
第10計算期間	0円
第11計算期間	0円
第12計算期間	540円
第13計算期間	0円
第14計算期間	0円
第15計算期間	6円
第16計算期間	0円
第17計算期間	0円
第18計算期間	0円
第19計算期間	0円
第20計算期間	483円
第21計算期間	435円
第22計算期間	0円
第23計算期間	0円
第24計算期間	0円

第25計算期間	0円
第26計算期間	269円
第27計算期間	489円
第28計算期間	354円
第29計算期間	0円

## 【収益率の推移】

	収益率（％）
第1計算期間	3.10
第2計算期間	2.82
第3計算期間	1.86
第4計算期間	2.72
第5計算期間	12.80
第6計算期間	6.68
第7計算期間	1.59
第8計算期間	0.00
第9計算期間	8.26
第10計算期間	3.19
第11計算期間	0.01
第12計算期間	5.95
第13計算期間	3.83
第14計算期間	3.63
第15計算期間	0.39
第16計算期間	0.52
第17計算期間	2.66
第18計算期間	1.47
第19計算期間	0.33
第20計算期間	7.04
第21計算期間	4.35
第22計算期間	15.08
第23計算期間	6.52
第24計算期間	4.04
第25計算期間	6.23
第26計算期間	2.70
第27計算期間	4.89
第28計算期間	3.54
第29計算期間	2.69

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配額の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配額の額）を控除した額を当該基準価額（分配額の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

## （４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	5,220,414,863	1,050,432,853	4,169,982,010
第2計算期間	3,790,816,644	1,298,200,910	6,662,597,744
第3計算期間	7,042,960,438	1,469,630,099	12,235,928,083
第4計算期間	4,596,880,782	1,254,405,008	15,578,403,857
第5計算期間	3,013,222,392	1,461,633,098	17,129,993,151
第6計算期間	974,850,093	841,105,836	17,263,737,408
第7計算期間	1,043,144,972	1,978,813,178	16,328,069,202
第8計算期間	722,029,814	1,522,520,698	15,527,578,318
第9計算期間	1,080,539,397	2,759,749,763	13,848,367,952
第10計算期間	1,356,218,053	2,791,768,924	12,412,817,081
第11計算期間	860,505,577	3,148,036,249	10,125,286,409
第12計算期間	1,102,181,525	2,435,895,893	8,791,572,041
第13計算期間	2,081,214,446	1,028,480,233	9,844,306,254
第14計算期間	1,356,385,322	944,102,742	10,256,588,834
第15計算期間	822,945,302	1,160,968,734	9,918,565,402
第16計算期間	1,076,466,089	800,988,610	10,194,042,881
第17計算期間	524,426,334	240,350,289	10,478,118,926
第18計算期間	334,643,653	1,001,164,019	9,811,598,560
第19計算期間	418,348,554	648,805,320	9,581,141,794
第20計算期間	360,380,400	1,047,141,956	8,894,380,238
第21計算期間	929,578,874	675,603,818	9,148,355,294
第22計算期間	918,632,079	283,444,521	9,783,542,852
第23計算期間	481,019,425	298,920,585	9,965,641,692
第24計算期間	380,127,312	600,770,605	9,744,998,399
第25計算期間	322,275,893	835,650,120	9,231,624,172
第26計算期間	428,806,374	832,864,037	8,827,566,509
第27計算期間	504,818,643	290,255,242	9,042,129,910
第28計算期間	772,942,815	409,059,797	9,406,012,928
第29計算期間	656,837,470	512,674,729	9,550,175,669

## 参考情報

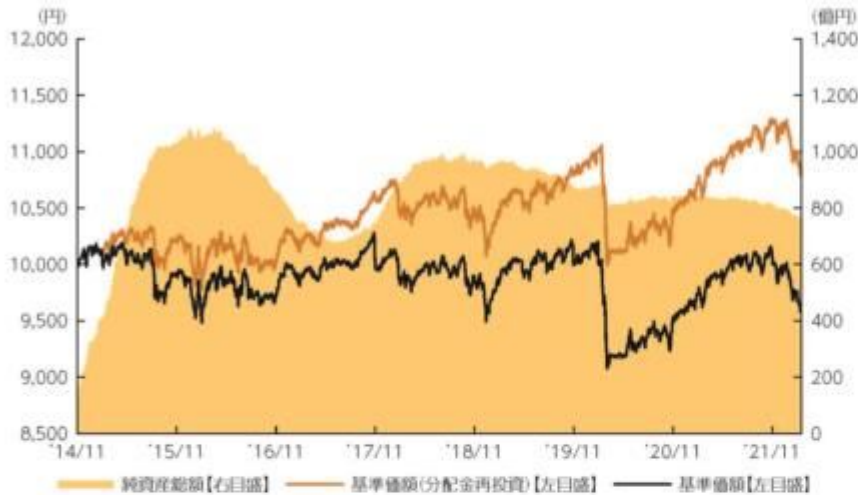


## 運用実績

2022年2月28日現在

### 安定型

#### ■ 基準価額・純資産の推移 2014年11月14日(設定日)～2022年2月28日



- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は10,000を起点として表示
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

#### ■ 基準価額・純資産

基準価額	9,597円
純資産総額	760.4億円

•純資産総額は表示桁未満切捨て

#### ■ 分配の推移

2022年2月	0円
2021年11月	141円
2021年8月	91円
2021年5月	0円
2021年2月	0円
2020年11月	0円
直近1年間累計	232円
設定来累計	1,201円

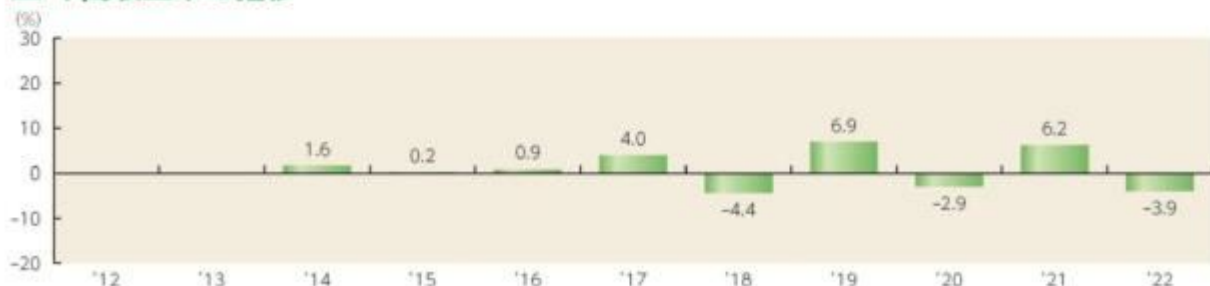
•分配金は1万口当たり、税引前

#### ■ 主要な資産の状況

資産構成	比率
MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	37.1%
MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	16.2%
国内物価連動国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	12.6%
MUAM 外国株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	7.4%
日本株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	6.6%
MUAM インデックスファンドTOPIX(適格機関投資家限定)	6.6%
その他	11.9%
コールローン他 (負債控除後)	1.6%
合計	100.0%

- 比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

#### ■ 年間収益率の推移



- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2014年は設定日から年末までの、2022年は年初から2月28日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

## 安定成長型

### ■ 基準価額・純資産の推移 2014年11月14日(設定日)～2022年2月28日



- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は10,000を起点として表示
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

### ■ 基準価額・純資産

基準価額	9,490円
純資産総額	183.1億円

•純資産総額は表示桁未満切捨て

### ■ 分配の推移

2022年2月	0円
2021年11月	238円
2021年8月	346円
2021年5月	83円
2021年2月	0円
2020年11月	0円
直近1年間累計	667円
設定来累計	2,207円

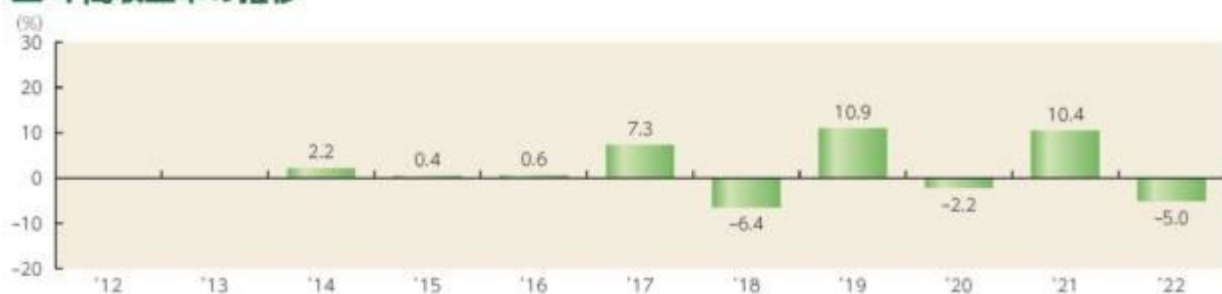
•分配金は1万円当たり、税引前

### ■ 主要な資産の状況

資産構成	比率
MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	26.4%
MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	11.7%
MUAM 外国株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	11.3%
日本株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	10.3%
MUAM インデックスファンドTOPIXi(適格機関投資家限定)	10.2%
国内物価連動国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	8.9%
その他	19.6%
コールローン他 (負債控除後)	1.6%
合計	100.0%

- 比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

### ■ 年間収益率の推移

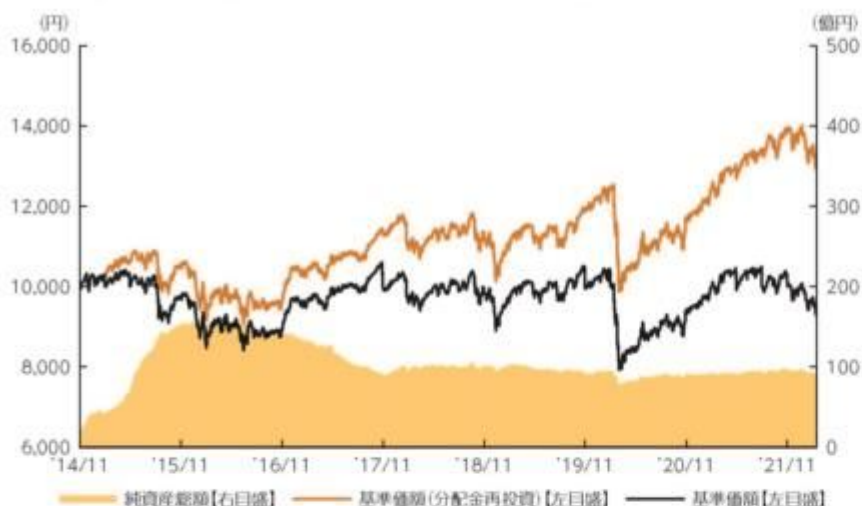


- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2014年は設定日から年末までの、2022年は年初から2月28日までの収益率を表示
- ファンド内にベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

## 成長型

### ■ 基準価額・純資産の推移 2014年11月14日(設定日)～2022年2月28日



- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は10,000を起点として表示
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

### ■ 基準価額・純資産

基準価額	9,370円
純資産総額	88.9億円

•純資産総額は表示桁未満切捨て

### ■ 分配の推移

2022年2月	0円
2021年11月	354円
2021年8月	489円
2021年5月	269円
2021年2月	0円
2020年11月	0円
直近1年間累計	1,112円
設定来累計	3,354円

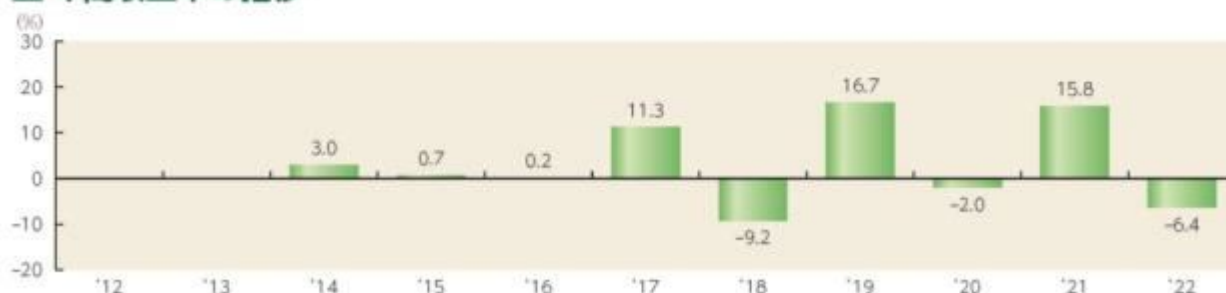
•分配金は1万口当たり、税引前

### ■ 主要な資産の状況

資産構成	比率
MUAM 外国株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	16.6%
日本株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	14.5%
MUAM インデックスファンドTOPIX(適格機関投資家限定)	14.4%
MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	12.7%
先進国株式クオリティ・インデックスファンド(適格機関投資家限定)	8.6%
先進国株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	8.5%
その他	22.8%
コールローン他 (負債控除後)	1.9%
合計	100.0%

- 比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

### ■ 年間収益率の推移



- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2014年は設定日から年末までの、2022年は年初から2月28日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。



## 第3【ファンドの経理状況】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 四半期決算ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期（令和3年8月14日から令和4年2月14日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

## 1【財務諸表】

## 【スマート・クオリティ・オープン（安定型）】

## (1)【貸借対照表】

	(単位：円)	
	前期 [ 令和3年8月13日現在 ]	当期 [ 令和4年2月14日現在 ]
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	42,191,627	60,911,170
コール・ローン	4,626,663,677	1,095,857,755
投資信託受益証券	76,470,414,509	75,184,207,021
投資証券	2,622,754,429	1,583,591,143
流動資産合計	83,762,024,242	77,924,567,089
資産合計	83,762,024,242	77,924,567,089
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	750,932,861	-
未払解約金	186,320,464	125,415,732
未払受託者報酬	6,917,442	6,509,564
未払委託者報酬	292,838,371	275,571,449
未払利息	1,806	531
その他未払費用	2,200,000	2,169,822
流動負債合計	1,239,210,944	409,667,098
負債合計	1,239,210,944	409,667,098
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	82,520,094,723	79,408,988,514
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2,718,575	1,894,088,523
（分配準備積立金）	574,812,420	522,810,796
元本等合計	82,522,813,298	77,514,899,991
純資産合計	82,522,813,298	77,514,899,991
負債純資産合計	83,762,024,242	77,924,567,089

## (2)【損益及び剰余金計算書】

	前期		当期			
	自 至	令和 3年 令和 3年	2月16日 8月13日	自 至	令和 3年 令和 4年	8月14日 2月14日
<b>営業収益</b>						
受取配当金			65,926,466			69,884,430
受取利息			1,164			2,762
有価証券売買等損益			3,241,731,115			338,275,817
為替差損益			134,605,980			98,183,887
営業収益合計			3,442,264,725			170,204,738
<b>営業費用</b>						
支払利息			117,015			193,418
受託者報酬			13,478,675			13,465,619
委託者報酬			570,597,203			570,044,493
その他費用			4,553,875			4,580,686
営業費用合計			588,746,768			588,284,216
営業利益又は営業損失（ ）			2,853,517,957			758,488,954
経常利益又は経常損失（ ）			2,853,517,957			758,488,954
当期純利益又は当期純損失（ ）			2,853,517,957			758,488,954
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）			77,823,969			11,115,678
期首剰余金又は期首欠損金（ ）			2,133,888,138			2,718,575
剰余金増加額又は欠損金減少額			141,559,798			5,409,130
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額			138,850,417			75,142
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額			2,709,381			5,333,988
剰余金減少額又は欠損金増加額			29,714,212			18,418,384
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額			-			170,390
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額			29,714,212			18,247,994
分配金			750,932,861			1,136,424,568
期末剰余金又は期末欠損金（ ）			2,718,575			1,894,088,523

### （ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。 ファンドの特定期間 当ファンドは、原則として毎年2月13日および8月13日を特定期間の末日としておりますが、当特定期間においては当該日が休業日のため、当特定期間は令和 3年 8月14日から令和 4年 2月14日までとなっております。

## （重要な会計上の見積りに関する注記）

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌特定期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

## （貸借対照表に関する注記）

	前期 [令和 3年 8月13日現在]	当期 [令和 4年 2月14日現在]
1. 期首元本額	86,080,475,721円	82,520,094,723円
期中追加設定元本額	3,640,549,539円	3,796,195,674円
期中一部解約元本額	7,200,930,537円	6,907,301,883円
2. 元本の欠損		
純資産額が元本総額を下回っており、その差額であります。	円	1,894,088,523円
3. 受益権の総数	82,520,094,723口	79,408,988,514口

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日																																																																								
<p>1. 分配金の計算過程</p> <p>第26期 令和 3年 2月16日 令和 3年 5月13日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>39,242,044円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>317,114,004円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>230,065,818円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>586,421,866円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>83,895,060,064口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>69円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>円</td> </tr> </tbody> </table> <p>第27期 令和 3年 5月14日 令和 3年 8月13日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>12,296,522円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	39,242,044円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	円	収益調整金額	C	317,114,004円	分配準備積立金額	D	230,065,818円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	586,421,866円	当ファンドの期末残存口数	F	83,895,060,064口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	69円	1万口当たり分配金額	H	円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	円	項目			費用控除後の配当等収益額	A	12,296,522円	<p>1. 分配金の計算過程</p> <p>第28期 令和 3年 8月14日 令和 3年11月15日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>46,991,216円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>1,084,275,350円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>324,038,920円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>548,246,105円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>2,003,551,591円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>80,597,487,151口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>248円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>141円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>1,136,424,568円</td> </tr> </tbody> </table> <p>第29期 令和 3年11月16日 令和 4年 2月14日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	46,991,216円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	1,084,275,350円	収益調整金額	C	324,038,920円	分配準備積立金額	D	548,246,105円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,003,551,591円	当ファンドの期末残存口数	F	80,597,487,151口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	248円	1万口当たり分配金額	H	141円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	1,136,424,568円	項目			費用控除後の配当等収益額	A	円
項目																																																																									
費用控除後の配当等収益額	A	39,242,044円																																																																							
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	円																																																																							
収益調整金額	C	317,114,004円																																																																							
分配準備積立金額	D	230,065,818円																																																																							
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	586,421,866円																																																																							
当ファンドの期末残存口数	F	83,895,060,064口																																																																							
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	69円																																																																							
1万口当たり分配金額	H	円																																																																							
収益分配金金額	I=F*H/10,000	円																																																																							
項目																																																																									
費用控除後の配当等収益額	A	12,296,522円																																																																							
項目																																																																									
費用控除後の配当等収益額	A	46,991,216円																																																																							
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	1,084,275,350円																																																																							
収益調整金額	C	324,038,920円																																																																							
分配準備積立金額	D	548,246,105円																																																																							
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,003,551,591円																																																																							
当ファンドの期末残存口数	F	80,597,487,151口																																																																							
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	248円																																																																							
1万口当たり分配金額	H	141円																																																																							
収益分配金金額	I=F*H/10,000	1,136,424,568円																																																																							
項目																																																																									
費用控除後の配当等収益額	A	円																																																																							

前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日			当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日		
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	1,054,854,796円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	円
収益調整金額	C	318,216,925円	収益調整金額	C	331,529,137円
分配準備積立金額	D	258,593,963円	分配準備積立金額	D	522,810,796円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	1,643,962,206円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	854,339,933円
当ファンドの期末残存口数	F	82,520,094,723口	当ファンドの期末残存口数	F	79,408,988,514口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	199円	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	107円
1万口当たり分配金額	H	91円	1万口当たり分配金額	H	円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	750,932,861円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	円

## (金融商品に関する注記)

## 1 金融商品の状況に関する事項

区分	前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>当ファンドは、投資証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。</p> <p>当ファンドは、投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。</p> <p>当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。</p>	同左

区分	前期	当期
	自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日
3.金融商品に係るリスク管理体制	<p>ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。</p> <p>また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。</p>	同左

## 2 金融商品の時価等に関する事項

区分	前期	当期
	[ 令和 3年 8月13日現在 ]	[ 令和 4年 2月14日現在 ]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券</p> <p>売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引</p> <p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>上記以外の金融商品(コールローン等)は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1) 有価証券</p> <p>同左</p> <p>(2) デリバティブ取引</p> <p>同左</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>同左</p>
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	前期	当期
	[ 令和 3年 8月13日現在 ]	[ 令和 4年 2月14日現在 ]
	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)

投資信託受益証券	1,911,853,702	1,476,003,820
投資証券	117,085,382	81,618,803
合計	2,028,939,084	1,557,622,623

## （デリバティブ取引に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
1口当たり純資産額	1.0000円	0.9761円
(1万口当たり純資産額)	(10,000円)	(9,761円)

## （4）【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	MUAM 外国株式インデックスファンド （適格機関投資家限定）	1,999,813,557	6,042,836,625	
		MUAM インデックスファンドTOPIX i（適格機関投資家限定）	3,048,954,212	5,239,932,708	
		国内物価連動国債インデックスファンド （適格機関投資家限定）	9,941,509,349	9,834,141,048	
		MUKAM 日本超長期国債インデックス ファンド（適格機関投資家限定）	12,729,254,342	12,375,381,071	
		日本株式最小分散インデックスファンド （適格機関投資家限定）	3,749,493,345	5,226,418,773	

		先進国株式最小分散インデックスファンド（適格機関投資家限定）	1,701,275,902	3,051,238,330	
		先進国株式クオリティ・インデックスファンド（適格機関投資家限定）	1,476,093,023	2,784,944,706	
		国内リートインデックス・ファンド（適格機関投資家限定）	250,159,484	355,501,642	
		MUAM 日本債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	23,279,743,485	28,603,820,820	
		MUAM 外国債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	1,127,306,128	1,669,991,298	
円合計			59,303,602,827	75,184,207,021	
アメリカドル	投資証券	ISHARES GLOBAL REIT ETF	39,336	1,097,474.40	
		ISHARES JPM USD EM BND USD A	1,181,500	6,676,656.50	
		ISHARES MSCI EMERGING MARKET	59,836	2,915,209.92	
		ISHARES MSCI EMG MKT MIN VOL	48,267	3,029,719.59	
アメリカドル合計			1,328,939	13,719,060.41 (1,583,591,143)	
合計				76,767,798,164 (1,583,591,143)	

(注1)通貨の種類ごとの小計/合計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

#### 外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入投資証券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
アメリカドル	投資証券 4銘柄	100.00%	2.06%

#### 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

#### 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

#### 【スマート・クオリティ・オープン（安定成長型）】

##### (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ] 当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]

資産の部

	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
<b>流動資産</b>		
預金	16,265,877	56,008,136
コール・ローン	1,810,923,753	288,054,053
投資信託受益証券	16,986,329,327	17,651,056,309
投資証券	1,113,899,985	923,657,336
未収入金	80,969,510	87,484,958
流動資産合計	20,008,388,452	19,006,260,792
<b>資産合計</b>	<b>20,008,388,452</b>	<b>19,006,260,792</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
未払収益分配金	665,255,189	-
未払解約金	39,382,518	150,073,473
未払受託者報酬	1,629,861	1,584,761
未払委託者報酬	74,430,184	72,370,535
未払利息	707	139
その他未払費用	543,254	528,224
流動負債合計	781,241,713	224,557,132
<b>負債合計</b>	<b>781,241,713</b>	<b>224,557,132</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>元本等</b>		
元本	19,227,028,604	19,281,631,873
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	118,135	499,928,213
（分配準備積立金）	244,519,521	221,114,795
元本等合計	19,227,146,739	18,781,703,660
<b>純資産合計</b>	<b>19,227,146,739</b>	<b>18,781,703,660</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>20,008,388,452</b>	<b>19,006,260,792</b>

## ( 2 ) 【損益及び剰余金計算書】

( 単位：円 )

	前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日
<b>営業収益</b>		
受取配当金	23,262,657	30,608,153
受取利息	434	762
有価証券売買等損益	1,083,490,104	32,384,513
為替差損益	55,093,540	49,173,452
営業収益合計	1,161,846,735	112,166,880
<b>営業費用</b>		
支払利息	43,254	53,951
受託者報酬	3,144,060	3,254,730
委託者報酬	143,578,764	148,632,488
その他費用	1,120,929	1,176,934
営業費用合計	147,887,007	153,118,103
営業利益又は営業損失（ ）	1,013,959,728	40,951,223
経常利益又は経常損失（ ）	1,013,959,728	40,951,223
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,013,959,728	40,951,223
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	22,780,717	6,722,238
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	190,623,494	118,135
剰余金増加額又は欠損金減少額	23,667,160	4,197,239
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	8,568,189	127,188
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	15,098,971	4,070,051
剰余金減少額又は欠損金増加額	203,737	6,539,634



	前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	203,737	44,069
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	6,495,565
分配金	823,900,805	463,474,968
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	118,135	499,928,213

## ( 3 ) 【注記表】

( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。 ファンドの特定期間 当ファンドは、原則として毎年2月13日および8月13日を特定期間の末日としておりますが、当特定期間においては当該日が休業日のため、当特定期間は令和 3年 8月14日から令和 4年 2月14日までとなっております。

( 重要な会計上の見積りに関する注記 )

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌特定期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

( 貸借対照表に関する注記 )

	前期 [令和 3年 8月13日現在]	当期 [令和 4年 2月14日現在]
1. 期首元本額	19,326,991,099円	19,227,028,604円
期中追加設定元本額	1,418,023,030円	1,664,758,130円
期中一部解約元本額	1,517,985,525円	1,610,154,861円
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っており、その差額であります。	円	499,928,213円
3. 受益権の総数	19,227,028,604口	19,281,631,873口

( 損益及び剰余金計算書に関する注記 )

前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日																																																												
1. 分配金の計算過程 第26期 令和 3年 2月16日 令和 3年 5月13日	1. 分配金の計算過程 第28期 令和 3年 8月14日 令和 3年11月15日																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>14,584,890円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>281,468,395円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>211,117,021円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>130,462,487円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>637,632,793円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>19,113,929,650口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>333円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>83円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>158,645,616円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	14,584,890円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	281,468,395円	収益調整金額	C	211,117,021円	分配準備積立金額	D	130,462,487円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	637,632,793円	当ファンドの期末残存口数	F	19,113,929,650口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	333円	1万口当たり分配金額	H	83円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	158,645,616円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>19,467,922円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>439,780,487円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>237,704,289円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>235,732,534円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>932,685,232円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>19,473,738,173口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>478円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>238円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>463,474,968円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	19,467,922円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	439,780,487円	収益調整金額	C	237,704,289円	分配準備積立金額	D	235,732,534円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	932,685,232円	当ファンドの期末残存口数	F	19,473,738,173口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	478円	1万口当たり分配金額	H	238円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	463,474,968円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	14,584,890円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	281,468,395円																																																											
収益調整金額	C	211,117,021円																																																											
分配準備積立金額	D	130,462,487円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	637,632,793円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	19,113,929,650口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	333円																																																											
1万口当たり分配金額	H	83円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	158,645,616円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	19,467,922円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	439,780,487円																																																											
収益調整金額	C	237,704,289円																																																											
分配準備積立金額	D	235,732,534円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	932,685,232円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	19,473,738,173口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	478円																																																											
1万口当たり分配金額	H	238円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	463,474,968円																																																											
第27期 令和 3年 5月14日 令和 3年 8月13日	第29期 令和 3年11月16日 令和 4年 2月14日																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>4,670,355円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>646,064,843円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>222,781,758円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>259,039,512円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>1,132,556,468円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>19,227,028,604口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>589円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>346円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>665,255,189円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	4,670,355円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	646,064,843円	収益調整金額	C	222,781,758円	分配準備積立金額	D	259,039,512円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	1,132,556,468円	当ファンドの期末残存口数	F	19,227,028,604口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	589円	1万口当たり分配金額	H	346円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	665,255,189円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>243,466,667円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>221,114,795円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>464,581,462円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>19,281,631,873口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>240円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	円	収益調整金額	C	243,466,667円	分配準備積立金額	D	221,114,795円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	464,581,462円	当ファンドの期末残存口数	F	19,281,631,873口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	240円	1万口当たり分配金額	H	円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	4,670,355円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	646,064,843円																																																											
収益調整金額	C	222,781,758円																																																											
分配準備積立金額	D	259,039,512円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	1,132,556,468円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	19,227,028,604口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	589円																																																											
1万口当たり分配金額	H	346円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	665,255,189円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	円																																																											
収益調整金額	C	243,466,667円																																																											
分配準備積立金額	D	221,114,795円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	464,581,462円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	19,281,631,873口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	240円																																																											
1万口当たり分配金額	H	円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	円																																																											

## (金融商品に関する注記)

## 1 金融商品の状況に関する事項

区分	前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>当ファンドは、投資証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。</p> <p>当ファンドは、投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。</p> <p>当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。</p>	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	<p>ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。</p> <p>また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。</p>	同左

## 2 金融商品の時価等に関する事項

区分	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券</p> <p>売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p>	<p>(1) 有価証券</p> <p>同左</p>

区分	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	( 2 ) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。	( 2 ) デリバティブ取引 同左
	( 3 ) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	( 3 ) 上記以外の金融商品 同左
	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
投資信託受益証券	649,425,282	370,759,575
投資証券	50,413,360	36,741,939
合計	699,838,642	407,501,514

## （デリバティブ取引に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
1口当たり純資産額	1.0000円	0.9741円

	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
(1万口当たり純資産額)	(10,000円)	(9,741円)

## ( 4 ) 【附属明細表】

## 第 1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

( 単位 : 円 )

通貨	種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	M U A M 外国株式インデックスファンド ( 適格機関投資家限定 )	733,630,427	2,216,811,061	
		M U A M インデックスファンド T O P I X i ( 適格機関投資家限定 )	1,141,549,257	1,961,866,553	
		国内物価連動国債インデックスファンド ( 適格機関投資家限定 )	1,726,610,202	1,707,962,811	
		M U K A M 日本超長期国債インデックス ファンド ( 適格機関投資家限定 )	2,206,204,699	2,144,872,208	
		日本株式最小分散インデックスファンド ( 適格機関投資家限定 )	1,403,429,969	1,956,241,033	
		先進国株式最小分散インデックスファン ド ( 適格機関投資家限定 )	612,987,267	1,099,392,663	
		先進国株式クオリティ・インデックス ファンド ( 適格機関投資家限定 )	595,883,603	1,124,253,593	
		国内リートインデックス・ファンド ( 適 格機関投資家限定 )	167,075,436	237,430,902	
		M U A M 日本債券インデックスファンド ( 適格機関投資家限定 )	3,935,688,575	4,835,780,552	
		M U A M 外国債券インデックスファンド ( 適格機関投資家限定 )	247,363,935	366,444,933	
円合計			12,770,423,370	17,651,056,309	
アメリカ ドル	投資証券	ISHARES GLOBAL REIT ETF	32,797	915,036.30	
		ISHARES JPM USD EM BND USD A	467,500	2,641,842.50	
		ISHARES MSCI EMERGING MARKET	45,158	2,200,097.76	
		ISHARES MSCI EMG MKT MIN VOL	35,764	2,244,906.28	
アメリカドル合計			581,219	8,001,882.84 (923,657,336)	
			合計	18,574,713,645 (923,657,336)	

(注1)通貨の種類ごとの小計/合計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

## 外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入投資証券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
アメリカドル	投資証券 4銘柄	100.00%	4.97%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【スマート・クオリティ・オープン（成長型）】

## (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	9,764,878	37,248,842
コール・ローン	1,202,551,403	273,833,779
投資信託受益証券	7,578,783,792	8,342,488,740
投資証券	749,134,980	735,561,019
未収入金	20,000,000	40,932,490
流動資産合計	9,560,235,053	9,430,064,870
<b>資産合計</b>		
9,560,235,053		
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	442,160,152	-
未払解約金	36,779,249	97,382,964
未払受託者報酬	773,591	778,033
未払委託者報酬	37,905,978	38,123,715
未払利息	469	132
その他未払費用	257,831	259,315
流動負債合計	517,877,270	136,544,159
<b>負債合計</b>		
517,877,270		
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	9,042,129,910	9,550,175,669
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	227,873	256,654,958
(分配準備積立金)	200,203,009	175,410,693
元本等合計	9,042,357,783	9,293,520,711
<b>純資産合計</b>		
9,042,357,783		
<b>負債純資産合計</b>		
9,560,235,053		

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日		当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日	
<b>営業収益</b>				
受取配当金		15,517,272		21,848,810
受取利息		236		481
有価証券売買等損益		705,666,034		92,959,323
為替差損益		37,904,788		38,437,172
営業収益合計		759,088,330		153,245,786
<b>営業費用</b>				
支払利息		22,339		34,034
受託者報酬		1,492,524		1,582,845
委託者報酬		73,133,730		77,559,506
その他費用		551,007		601,068
営業費用合計		75,199,600		79,777,453
営業利益又は営業損失( )		683,888,730		73,468,333
経常利益又は経常損失( )		683,888,730		73,468,333
当期純利益又は当期純損失( )		683,888,730		73,468,333
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )		22,075,509		5,154,233
期首剰余金又は期首欠損金( )		920,662		227,873
剰余金増加額又は欠損金減少額		19,195,009		7,013,557
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		225,417
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		19,195,009		6,788,140
剰余金減少額又は欠損金増加額		238,004		9,546,097
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		238,004		133,765
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		9,412,332
分配金		679,621,691		332,972,857
期末剰余金又は期末欠損金( )		227,873		256,654,958

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。 ファンドの特定期間 当ファンドは、原則として毎年2月13日および8月13日を特定期間の末日としておりますが、当特定期間においては当該日が休業日のため、当特定期間は令和3年8月14日から令和4年2月14日までとなっております。

## （重要な会計上の見積りに関する注記）

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌特定期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

## （貸借対照表に関する注記）

	前期 [令和 3年 8月13日現在]	当期 [令和 4年 2月14日現在]
1. 期首元本額	9,231,624,172円	9,042,129,910円
期中追加設定元本額	933,625,017円	1,429,780,285円
期中一部解約元本額	1,123,119,279円	921,734,526円
2. 元本の欠損		
純資産額が元本総額を下回っており、その差額であります。	円	256,654,958円
3. 受益権の総数	9,042,129,910口	9,550,175,669口

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日			当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日																																																												
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程																																																												
第26期			第28期																																																												
令和 3年 2月16日			令和 3年 8月14日																																																												
令和 3年 5月13日			令和 3年11月15日																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>9,765,960円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>219,979,389円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>205,046,109円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>224,880,016円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>659,671,474円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>8,827,566,509口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>747円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>269円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>237,461,539円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	9,765,960円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	219,979,389円	収益調整金額	C	205,046,109円	分配準備積立金額	D	224,880,016円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	659,671,474円	当ファンドの期末残存口数	F	8,827,566,509口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	747円	1万口当たり分配金額	H	269円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	237,461,539円			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>13,684,746円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>312,651,985円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>248,006,351円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>191,647,547円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>765,990,629円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>9,406,012,928口</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F*10,000</td> <td>814円</td> </tr> <tr> <td>1万口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>354円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F*H/10,000</td> <td>332,972,857円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	13,684,746円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	312,651,985円	収益調整金額	C	248,006,351円	分配準備積立金額	D	191,647,547円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	765,990,629円	当ファンドの期末残存口数	F	9,406,012,928口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	814円	1万口当たり分配金額	H	354円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	332,972,857円
項目																																																															
費用控除後の配当等収益額	A	9,765,960円																																																													
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	219,979,389円																																																													
収益調整金額	C	205,046,109円																																																													
分配準備積立金額	D	224,880,016円																																																													
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	659,671,474円																																																													
当ファンドの期末残存口数	F	8,827,566,509口																																																													
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	747円																																																													
1万口当たり分配金額	H	269円																																																													
収益分配金金額	I=F*H/10,000	237,461,539円																																																													
項目																																																															
費用控除後の配当等収益額	A	13,684,746円																																																													
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	312,651,985円																																																													
収益調整金額	C	248,006,351円																																																													
分配準備積立金額	D	191,647,547円																																																													
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	765,990,629円																																																													
当ファンドの期末残存口数	F	9,406,012,928口																																																													
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	814円																																																													
1万口当たり分配金額	H	354円																																																													
収益分配金金額	I=F*H/10,000	332,972,857円																																																													
第27期			第29期																																																												
令和 3年 5月14日			令和 3年11月16日																																																												
令和 3年 8月13日			令和 4年 2月14日																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>3,279,839円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	3,279,839円			<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	円																																																
項目																																																															
費用控除後の配当等収益額	A	3,279,839円																																																													
項目																																																															
費用控除後の配当等収益額	A	円																																																													



前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日			当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日		
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	428,788,033円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	円
収益調整金額	C	222,176,992円	収益調整金額	C	264,243,445円
分配準備積立金額	D	210,295,289円	分配準備積立金額	D	175,410,693円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	864,540,153円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	439,654,138円
当ファンドの期末残存口数	F	9,042,129,910口	当ファンドの期末残存口数	F	9,550,175,669口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	956円	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	460円
1万口当たり分配金額	H	489円	1万口当たり分配金額	H	円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	442,160,152円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	円

## (金融商品に関する注記)

## 1 金融商品の状況に関する事項

区分	前期 自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	当期 自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>当ファンドは、投資証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。</p> <p>当ファンドは、投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。</p> <p>当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。</p>	同左

区分	前期	当期
	自 令和 3年 2月16日 至 令和 3年 8月13日	自 令和 3年 8月14日 至 令和 4年 2月14日
3.金融商品に係るリスク管理体制	<p>ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。</p> <p>また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。</p>	同左

## 2 金融商品の時価等に関する事項

区分	前期	当期
	[ 令和 3年 8月13日現在 ]	[ 令和 4年 2月14日現在 ]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券</p> <p>売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引</p> <p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>上記以外の金融商品(コールローン等)は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1) 有価証券</p> <p>同左</p> <p>(2) デリバティブ取引</p> <p>同左</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>同左</p>
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	前期	当期
	[ 令和 3年 8月13日現在 ]	[ 令和 4年 2月14日現在 ]
	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)

投資信託受益証券	425,335,084	181,339,274
投資証券	30,767,009	28,821,130
合計	456,102,093	210,160,404

## （デリバティブ取引に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （1口当たり情報）

	前期 [ 令和 3年 8月13日現在 ]	当期 [ 令和 4年 2月14日現在 ]
1口当たり純資産額	1.0000円	0.9731円
(1万口当たり純資産額)	(10,000円)	(9,731円)

## （4）【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	MUAM 外国株式インデックスファンド （適格機関投資家限定）	533,134,999	1,610,974,026	
		MUAM インデックスファンドTOPIX i （適格機関投資家限定）	802,235,648	1,378,722,184	
		国内物価連動国債インデックスファンド （適格機関投資家限定）	407,407,729	403,007,725	
		MUKAM 日本超長期国債インデックス ファンド（適格機関投資家限定）	520,866,573	506,386,482	
		日本株式最小分散インデックスファンド （適格機関投資家限定）	986,457,865	1,375,023,618	

		先進国株式最小分散インデックスファンド(適格機関投資家限定)	446,179,263	800,222,508	
		先進国株式クオリティ・インデックスファンド(適格機関投資家限定)	434,398,669	819,579,968	
		国内リートインデックス・ファンド(適格機関投資家限定)	152,651,401	216,932,905	
		MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	851,676,353	1,046,454,734	
		MUAM 外国債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	125,006,474	185,184,590	
円合計			5,260,014,974	8,342,488,740	
アメリカドル	投資証券	ISHARES GLOBAL REIT ETF	32,095	895,450.50	
		ISHARES JPM USD EM BND USD A	349,000	1,972,199.00	
		ISHARES MSCI EMERGING MARKET	35,602	1,734,529.44	
		ISHARES MSCI EMG MKT MIN VOL	28,201	1,770,176.77	
アメリカドル合計			444,898	6,372,355.71 (735,561,019)	
合計				9,078,049,759 (735,561,019)	

(注1)通貨の種類ごとの小計/合計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

#### 外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入投資証券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
アメリカドル	投資証券 4銘柄	100.00%	8.10%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

### 【スマート・クオリティ・オープン(安定型)】

### 【純資産額計算書】

令和4年2月28日現在

(単位：円)

資産総額	76,232,357,058
負債総額	182,629,954
純資産総額（ - ）	76,049,727,104
発行済口数	79,242,642,146口
1口当たり純資産価額（ / ）	0.9597
（10,000口当たり）	（9,597）

## 【スマート・クオリティ・オープン（安定成長型）】

## 【純資産額計算書】

令和 4年 2月28日現在

(単位：円)

資産総額	18,358,976,630
負債総額	42,297,305
純資産総額（ - ）	18,316,679,325
発行済口数	19,300,433,050口
1口当たり純資産価額（ / ）	0.9490
（10,000口当たり）	（9,490）

## 【スマート・クオリティ・オープン（成長型）】

## 【純資産額計算書】

令和 4年 2月28日現在

(単位：円)

資産総額	8,956,174,852
負債総額	63,088,877
純資産総額（ - ）	8,893,085,975
発行済口数	9,490,653,753口
1口当たり純資産価額（ / ）	0.9370
（10,000口当たり）	（9,370）

## 第三部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

<更新後>

##### (1) 資本金の額等

2022年2月末現在、資本金は2,000百万円です。なお、発行可能株式総数は400,000株であり、211,581株を発行済です。最近5年間における資本金の額の増減はありません。

##### (2) 委託会社の機構

###### ・ 会社の意思決定機構

業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務の執行を監督する機関として、取締役会を設置します。取締役の選任は、総株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席する株主総会にてその議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。また、取締役会で決定した基本方針に基づき、経営管理全般に関する執行方針その他重要な事項を協議・決定する機関として、経営会議を設置します。

###### ・ 投資運用の意思決定機構

###### 投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

###### 運用戦略の決定

運用戦略委員会において、で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

###### 運用計画の決定

で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

###### ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

###### 投資行動のモニタリング1

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。

###### 投資行動のモニタリング2

運用部から独立した管理担当部署は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされ、必要に応じて是正を指示します。

###### ファンドに係る法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に係る法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、リスク管理委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

###### 運用・管理に関する監督

内部監査担当部署は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

<更新後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）等を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務を行っています。

2022年2月28日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除きます。）

商品分類	本数 (本)	純資産総額 (百万円)
追加型株式投資信託	899	18,862,930
追加型公社債投資信託	16	1,349,427
単位型株式投資信託	89	407,755
単位型公社債投資信託	50	182,673
合計	1,054	20,802,785

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しておりますので、表中の個々の数字の合計と合計欄の数字とは一致しないことがあります。

## 3【委託会社等の経理状況】

<更新後>

### (1) 財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

委託会社である三菱UFJ国際投信株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）」（以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成19年内閣府令第52号）」に基づき作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和52年大蔵省令第38号）」（以下「中間財務諸表等規則」という。）第38条及び第57条の規定により、中間財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」に基づき作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表に掲載している金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

### (2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第36期事業年度（自令和2年4月1日至令和3年3月31日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第37期事業年度に係る中間会計期

間(自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)の中間財務諸表について、有限責任監査法人  
トーマツにより中間監査を受けております。

## (1)【貸借対照表】

		(単位：千円)	
		第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	2	56,398,457	2
有価証券		1,960,318	2,001
前払費用		575,904	598,135
未収入金		14,559	31,359
未収委託者報酬		10,296,453	13,216,357
未収収益	2	638,994	2
金銭の信託		100,000	2,300,000
その他		254,330	269,506
流動資産合計		70,239,017	73,882,978
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
建物	1	584,048	1
器具備品	1	871,893	1
土地		628,433	628,433
有形固定資産合計		2,084,375	2,612,705
<b>無形固定資産</b>			
電話加入権		15,822	15,822
ソフトウェア		3,369,611	3,569,171
ソフトウェア仮勘定		1,374,932	1,895,190
無形固定資産合計		4,760,365	5,480,184
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券		16,704,756	18,616,670
関係会社株式		320,136	320,136
投資不動産	1	819,255	1
長期差入保証金		565,358	538,497
前払年金費用		375,031	258,835
繰延税金資産		1,912,824	916,962
その他		45,230	45,230
貸倒引当金		23,600	23,600
投資その他の資産合計		20,718,993	21,487,417
固定資産合計		27,563,734	29,580,307
資産合計		97,802,752	103,463,286

(単位：千円)

		第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
預り金		687,565	533,622



未払金				
未払収益分配金		131,478		158,856
未払償還金		395,400		133,877
未払手数料	2	4,026,078	2	5,200,810
その他未払金	2	3,818,195	2	4,412,521
未払費用	2	4,402,578	2	4,755,909
未払消費税等		629,469		752,617
未払法人税等		617,341		873,027
賞与引当金		933,517		933,381
役員賞与引当金		124,590		160,710
その他		701,285		691,143
流動負債合計		16,467,499		18,606,476
固定負債				
長期未払金		32,400		21,600
退職給付引当金		1,010,401		1,145,514
役員退職慰労引当金		130,784		117,938
時効後支払損引当金		238,811		245,426
固定負債合計		1,412,398		1,530,479
負債合計		17,879,897		20,136,956
(純資産の部)				
株主資本				
資本金		2,000,131		2,000,131
資本剰余金				
資本準備金		3,572,096		3,572,096
その他資本剰余金		41,160,616		41,160,616
資本剰余金合計		44,732,712		44,732,712
利益剰余金				
利益準備金		342,589		342,589
その他利益剰余金				
別途積立金		6,998,000		6,998,000
繰越利益剰余金		25,847,605		26,951,289
利益剰余金合計		33,188,194		34,291,879
株主資本合計		79,921,039		81,024,723

(単位：千円)

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,815	2,301,606
評価・換算差額等合計	1,815	2,301,606
純資産合計	79,922,854	83,326,329
負債純資産合計	97,802,752	103,463,286

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)		第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	
営業収益				
委託者報酬		67,967,489		67,963,712
投資顧問料		2,385,084		2,443,980
その他営業収益		16,085		21,613
営業収益合計		70,368,658		70,429,306
営業費用				
支払手数料	2	27,106,451	2	26,689,896
広告宣伝費		696,418		668,150
公告費		1,000		250
調査費				
調査費		1,857,271		2,077,942
委託調査費		11,579,175		12,035,954
事務委託費		847,769		798,528
営業雑経費				
通信費		153,731		296,490
印刷費		427,118		378,180
協会費		52,053		51,841
諸会費		15,990		16,613
事務機器関連費		1,953,926		1,977,769
その他営業雑経費				8,391
営業費用合計		44,690,907		45,000,009
一般管理費				
給料				
役員報酬		331,987		352,879
給料・手当		6,611,427		6,461,546
賞与引当金繰入		933,517		933,381
役員賞与引当金繰入		124,590		160,710
福利厚生費		1,276,950		1,272,568
交際費		11,871		2,721
旅費交通費		165,891		22,768
租税公課		360,165		402,939
不動産賃借料		647,402		666,331
退職給付費用		422,919		481,135
役員退職慰労引当金繰入		48,183		11,763
固定資産減価償却費		1,307,555		1,358,911
諸経費		427,212		413,538
一般管理費合計		12,669,674		12,541,193
営業利益		13,008,076		12,888,103

(単位：千円)

	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)		第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	
営業外収益				
受取配当金		90,965		170,807
受取利息	2	4,169	2	2,726
投資有価証券償還益		585,179		81,557
収益分配金等時効完成分		101,734		275,835

受取賃貸料	2	65,808	2	65,808
その他		19,987		12,504
営業外収益合計		867,845		609,239
営業外費用				
投資有価証券償還損		96,379		95,946
時効後支払損引当金繰入				16,395
事務過誤費		3,483		
賃貸関連費用		20,339		13,472
その他		1,920		2,932
営業外費用合計		122,122		128,747
経常利益		13,753,799		13,368,595
特別利益				
投資有価証券売却益		174,842		2,007,655
特別利益合計		174,842		2,007,655
特別損失				
投資有価証券売却損		75,963		51,737
投資有価証券評価損		163,865		26,317
固定資産除却損	1	8,832	1	536
固定資産売却損		435		
特別損失合計		249,096		78,591
税引前当期純利益		13,679,545		15,297,659
法人税、住民税及び事業税	2	4,146,534	2	4,755,427
法人税等調整額		79,824		19,122
法人税等合計		4,226,359		4,736,304
当期純利益		9,453,186		10,561,354

## (3) 【株主資本等変動計算書】

第35期（自平成31年4月1日至令和2年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	26,069,594	33,410,184	80,143,028
当期変動額									
剰余金の配当							9,675,175	9,675,175	9,675,175
当期純利益							9,453,186	9,453,186	9,453,186
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計							221,989	221,989	221,989
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	25,847,605	33,188,194	79,921,039

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,126,733	1,126,733	81,269,762
当期変動額			
剰余金の配当			9,675,175
当期純利益			9,453,186

株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	1,124,917	1,124,917	1,124,917
当期変動額合計	1,124,917	1,124,917	1,346,907
当期末残高	1,815	1,815	79,922,854

## 第36期（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金 合計	
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計	利益 準備金	その他利益剰余金			
					別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	25,847,605	33,188,194	79,921,039
当期変動額									
剰余金の配当							9,457,670	9,457,670	9,457,670
当期純利益							10,561,354	10,561,354	10,561,354
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)									
当期変動額合計							1,103,684	1,103,684	1,103,684
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	26,951,289	34,291,879	81,024,723

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,815	1,815	79,922,854
当期変動額			
剰余金の配当			9,457,670
当期純利益			10,561,354
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	2,299,791	2,299,791	2,299,791
当期変動額合計	2,299,791	2,299,791	3,403,475
当期末残高	2,301,606	2,301,606	83,326,329

## [注記事項]

## (重要な会計方針)

## 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

## (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

## (2) その他有価証券

## 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

## 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

## 2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

## 3. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	2年～20年

投資不動産 3年～47年

(2)無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5.引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3)役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5)役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(6)時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

6.その他財務諸表作成のための基礎となる事項

(1)消費税等の会計処理

税抜方式を採用しており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(2)連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(3)「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」の適用

令和2年度税制改正において従来の連結納税制度が見直され、グループ通算制度に移行する税制改正法（「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号））が令和2年3月31日に公布されておりますが、繰延税金資産の額について、実務対応報告第39号「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」により企業会計基準適用指針第28号「税効果会計に係る会計基準の適用指針」第44項の定めを適用せず、改正前の税法の規定に基づいて算定しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）

(1)概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

#### (2)適用予定日

令和4年3月期の期首から適用します。

#### (3)当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用により、翌事業年度の期首の純資産に累積的影響額が反映され、繰越利益剰余金の期首残高が475,687千円増加すると見込まれます。

- ・「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 令和元年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 令和元年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 令和元年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）

#### (1)概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）が、公正価値測定についてほぼ同じ内容の詳細なガイダンス（国際財務報告基準（IFRS）においてはIFRS第13号「公正価値測定」、米国会計基準においてはAccounting Standards CodificationのTopic 820「公正価値測定」）を定めている状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して、日本基準を国際的な会計基準との整合性を図る取組みが行われ、「時価の算定に関する会計基準」等が公表されたものです。

企業会計基準委員会の時価の算定に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、統一的な算定方法を用いることにより、国内外の企業間における財務諸表の比較可能性を向上させる観点から、IFRS第13号の定めを基本的にすべて取り入れることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわせない範囲で、個別項目に対するその他の取扱いを定めることとされております。

#### (2)適用予定日

令和4年3月期の期首から適用します。

#### (3)当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

#### （貸借対照表関係）

##### 1.有形固定資産及び投資不動産の減価償却累計額

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
建物	599,542千円	643,920千円
器具備品	1,408,613千円	1,545,179千円
投資不動産	145,391千円	151,833千円

##### 2.関係会社に対する主な資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
--	-----------------------	-----------------------

預金	314,247千円	40,328,414千円
未収収益	15,773千円	14,138千円
未払手数料	712,210千円	772,495千円
その他未払金	3,029,426千円	3,425,136千円
未払費用	432,019千円	349,222千円

## (損益計算書関係)

## 1. 固定資産除却損の内訳

	第35期	第36期
	(自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)	(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)
器具備品	8,832千円	536千円
計	8,832千円	536千円

## 2. 関係会社に対する主な取引

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第35期	第36期
	(自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)	(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)
支払手数料	5,234,629千円	5,128,270千円
受取利息	2千円	143千円
受取賃貸料	65,808千円	65,808千円
法人税、住民税及び事業税	3,030,180千円	3,492,898千円

## (株主資本等変動計算書関係)

第35期(自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

令和元年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	9,675,175千円
1株当たり配当額	45,728円
基準日	平成31年3月31日
効力発生日	令和元年6月27日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

令和2年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	9,457,670千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	44,700円
基準日	令和2年3月31日
効力発生日	令和2年6月29日

第36期(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)

発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

令和2年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	9,457,670千円
1株当たり配当額	44,700円
基準日	令和2年3月31日
効力発生日	令和2年6月29日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

令和3年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	10,576,511千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	49,988円
基準日	令和3年3月31日
効力発生日	令和3年6月29日

## (リース取引関係)

## 借主側

## オペレーティング・リース取引

## オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
1年内	675,956千円	709,808千円
1年超		709,808千円
合計	675,956千円	1,419,616千円

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については銀行預金、金銭の信託（合同運用指定金銭信託）で運用し、金融機関からの資金調達は行っておりません。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主として投資信託であり、価格変動リスクに晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

内部管理規程に従って月次でリスク資本を認識し、経営会議に報告しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2）参照）。

## 第35期(令和2年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	56,398,457	56,398,457	-
(2) 有価証券	1,960,318	1,960,318	-
(3) 金銭の信託	100,000	100,000	-
(4) 未収委託者報酬	10,296,453	10,296,453	-
(5) 投資有価証券	16,673,396	16,673,396	-



資産計	85,428,625	85,428,625	-
(1) 未払手数料	4,026,078	4,026,078	-
負債計	4,026,078	4,026,078	-

## 第36期(令和3年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	56,803,388	56,803,388	-
(2) 有価証券	2,001	2,001	-
(3) 金銭の信託	2,300,000	2,300,000	-
(4) 未収委託者報酬	13,216,357	13,216,357	-
(5) 投資有価証券	18,585,310	18,585,310	-
資産計	90,907,057	90,907,057	-
(1) 未払手数料	5,200,810	5,200,810	-
負債計	5,200,810	5,200,810	-

## (注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

## 資 産

## (1)現金及び預金、(4)未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (2)有価証券、(5)投資有価証券

これらはすべて投資信託であり、時価は基準価額によっております。

## (3)金銭の信託

時価は取引金融機関から提示された価格によっております。

## 負 債

## (1)未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
非上場株式	31,360	31,360
子会社株式	160,600	160,600
関連会社株式	159,536	159,536

非上場株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 投資有価証券」には含めておりません。

また、子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

## (注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第35期(令和2年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	56,398,457	-	-	-
金銭の信託	100,000	-	-	-
未収委託者報酬	10,296,453	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	1,960,318	5,652,257	4,813,929	27,375
合計	68,755,228	5,652,257	4,813,929	27,375

第36期(令和3年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	56,803,388	-	-	-
金銭の信託	2,300,000	-	-	-
未収委託者報酬	13,216,357	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	2,001	8,412,286	3,123,026	11,398
合計	72,321,747	8,412,286	3,123,026	11,398

(有価証券関係)

## 1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式160,600千円、関連会社株式159,536千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式160,600千円、関連会社株式159,536千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

## 2. その他有価証券

第35期(令和2年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	9,859,345	8,694,010	1,165,334
	小計	9,859,345	8,694,010	1,165,334
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	8,874,369	10,037,087	1,162,718
	小計	8,874,369	10,037,087	1,162,718
合計		18,733,714	18,731,098	2,616

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は100,000千円）を含めておりません。

非上場株式（貸借対照表計上額は31,360千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、含めておりません。

第36期(令和3年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	14,810,957	11,362,471	3,448,485
	小計	14,810,957	11,362,471	3,448,485
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	6,076,354	6,207,447	131,093
	小計	6,076,354	6,207,447	131,093
合計		20,887,311	17,569,919	3,317,392

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は2,300,000千円）を含めております。

非上場株式（貸借対照表計上額は31,360千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、含めておりません。

## 3.売却したその他有価証券

第35期（自平成31年4月1日至令和2年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
株式	8,940	-	15,060
債券	-	-	-
その他	2,035,469	174,842	60,903
合計	2,044,409	174,842	75,963

第36期（自令和2年4月1日至令和3年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	5,747,529	2,007,655	51,737
合計	5,747,529	2,007,655	51,737

## 4.減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について163,865千円（その他有価証券のその他163,865千円）減損処理を行っております。

当事業年度において、有価証券について26,317千円（その他有価証券のその他26,317千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

（退職給付関係）

## 1.採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

## 2.確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	第35期 （自平成31年4月1日 至令和2年3月31日）	第36期 （自令和2年4月1日 至令和3年3月31日）
退職給付債務の期首残高	3,712,289 千円	3,718,736 千円
勤務費用	204,225	203,106
利息費用	17,557	19,110
数理計算上の差異の 発生額	52,430	18,826
退職給付の支払額	162,904	192,890
過去勤務費用の発生額	-	-
退職給付債務の期末残高	3,718,736	3,729,235

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	第35期 （自平成31年4月1日 至令和2年3月31日）	第36期 （自令和2年4月1日 至令和3年3月31日）
年金資産の期首残高	2,666,937 千円	2,460,824 千円
期待運用収益	47,757	44,130
数理計算上の差異の 発生額	164,633	304,281
事業主からの拠出額	51,282	-
退職給付の支払額	140,518	159,390
年金資産の期末残高	2,460,824	2,649,846

## (3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
積立型制度の 退職給付債務	2,969,807 千円	2,810,893 千円
年金資産	2,460,824	2,649,846
非積立型制度の退職給付債務	508,982	161,046
未積立退職給付債務	748,929	918,342
未認識数理計算上の差異	1,257,911	1,079,388
未認識過去勤務費用	203,136	161,333
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	419,405	354,043
	635,370	886,678
退職給付引当金	1,010,401	1,145,514
前払年金費用	375,031	258,835
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	635,370	886,678

## (4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第35期 (自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)	第36期 (自令和2年4月1日 至令和3年3月31日)
勤務費用	204,225 千円	203,106 千円
利息費用	17,557	19,110
期待運用収益	47,757	44,130
数理計算上の差異の 費用処理額	24,035	41,361
過去勤務費用の費用処理額	65,361	65,361
その他	6,427	44,446
確定給付制度に係る 退職給付費用	269,848	329,255

(注)「その他」は受入出向者に係る出向元への退職給付費用負担額、再就職支援金及び退職金です。

## (5)年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
債券	64.7 %	62.7 %
株式	32.3	35.4
その他	3.0	1.9
合計	100	100

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6)数理計算上の計算基礎に関する事項

## 主要な数理計算上の計算基礎

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)

割引率	0.095～0.52%	0.051～0.59%
長期期待運用収益率	1.5～1.8%	1.5～1.8%

### 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度153,070千円、当事業年度151,880千円であります。

#### （税効果会計関係）

#### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳

	第35期 (令和2年3月31日現在)	第36期 (令和3年3月31日現在)
<b>繰延税金資産</b>		
減損損失	427,046千円	418,394千円
投資有価証券評価損	226,322	188,859
未払事業税	117,461	180,263
賞与引当金	285,842	285,801
役員賞与引当金	19,703	25,472
役員退職慰労引当金	40,046	36,112
退職給付引当金	309,384	350,756
減価償却超過額	96,767	68,024
委託者報酬	213,044	209,938
長期差入保証金	40,180	48,639
時効後支払損引当金	73,124	75,149
連結納税適用による時価評価 その他	57,656 123,248	38,873 87,023
繰延税金資産 小計	2,029,829	2,013,308
評価性引当額	-	-
繰延税金資産 合計	2,029,829	2,013,308
<b>繰延税金負債</b>		
前払年金費用	114,834	79,225
連結納税適用による時価評価	1,260	1,203
その他有価証券評価差額金	801	1,015,785
その他	109	101
繰延税金負債 合計	117,005	1,096,346
<b>繰延税金資産の純額</b>	1,912,824	916,962

#### 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

第35期（令和2年3月31日現在）及び第36期（令和3年3月31日現在）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

#### （セグメント情報等）

##### [セグメント情報]

第35期（自平成31年4月1日至令和2年3月31日）及び第36期（自令和2年4月1日至令和3年3月31日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

##### [関連情報]

第35期（自平成31年4月1日至令和2年3月31日）及び第36期（自令和2年4月1日至令和3年3月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるた

め、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

### (1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

### (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

### [報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### [報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### [報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (関連当事者情報)

### 1. 関連当事者との取引

#### (1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

##### 第35期(自平成31年4月1日至令和2年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注4)	科目	期末残高(注4)
親会社	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	東京都千代田区	2,141,513百万円	銀行持株会社業	被所有間接100.0%	連結納税	連結納税に伴う支払(注1)	3,030,180千円	その他未払金	3,029,426千円
親会社	三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区	324,279百万円	信託業、銀行業	被所有直接100.0%	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等  投資の助言  役員の兼任	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注2)  投資助言料(注3)	5,234,629千円  583,270千円	未払手数料  未払費用	712,210千円  302,681千円

##### 第36期(自令和2年4月1日至令和3年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注4)	科目	期末残高(注4)
親会社	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	東京都千代田区	2,141,513百万円	銀行持株会社業	被所有間接100.0%	連結納税	連結納税に伴う支払(注1)	3,492,898千円	その他未払金	3,425,136千円
親会社	三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区	324,279百万円	信託業、銀行業	被所有直接100.0%	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等  投資の助言  役員の兼任	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注2)  投資助言料(注3)	5,128,270千円  523,327千円	未払手数料  未払費用	772,495千円  290,120千円

## 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 連結納税制度に基づく連結法人税の支払予定額であります。
2. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。
3. 投資助言料については、市場実勢を勘案して決定しております。
4. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

## (2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

第35期(自平成31年4月1日至令和2年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注3)	科目	期末残高(注3)	
同一の親会社を持つ会社	㈱三菱UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注1)	4,073,855 千円	未払手数料	697,109 千円	
							取引銀行	コーラブル預金の払戻(注2)	20,000,000 千円		
								コーラブル預金の預入(注2)	20,000,000 千円	現金及び預金	20,000,000 千円
								コーラブル預金に係る受取利息(注2)	4,126 千円	未収収益	997 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注1)	5,714,501 千円	未払手数料	944,351 千円	

第36期(自令和2年4月1日至令和3年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注3)	科目	期末残高(注3)
同一の親会社を持つ会社	㈱三菱UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注1)	3,729,785 千円	未払手数料	764,501 千円

同一の親会社を持つ会社	三菱UFJ モルガン・ スタンレー 証券㈱	東京都 千代田 区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料 の支払 (注1)	5,655,482 千円	未払手数料	1,193,245 千円
-------------	--------------------------------	-----------------	---------------	-----	----	---	---------------------------------------	-----------------	-------	-----------------

## 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。
2. 預金利率の条件は、市場金利等を勘案して決定しております。なお、預入期間は1年であります。
3. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

## 2. 親会社に関する注記

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場）  
三菱UFJ信託銀行株式会社（非上場）

## (1株当たり情報)

	第35期 (自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)	第36期 (自令和2年4月1日 至令和3年3月31日)
1株当たり純資産額	377,741.17円	393,827.09円
1株当たり当期純利益金額	44,678.80円	49,916.36円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第35期 (自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)	第36期 (自令和2年4月1日 至令和3年3月31日)
当期純利益金額（千円）	9,453,186	10,561,354
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	9,453,186	10,561,354
普通株式の期中平均株式数（株）	211,581	211,581

## 中間財務諸表

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

第37期中間会計期間  
(令和3年9月30日現在)

## (資産の部)

## 流動資産

現金及び預金	48,742,270
有価証券	1,291,000
前払費用	682,143
未収入金	166,605
未収委託者報酬	15,228,560
未収収益	694,402
金銭の信託	5,301,000
その他	226,759



流動資産合計		72,332,741
固定資産		
有形固定資産		
建物	1	527,772
器具備品	1	1,371,778
土地		628,433
有形固定資産合計		2,527,984
無形固定資産		
電話加入権		15,822
ソフトウェア		4,217,271
ソフトウェア仮勘定		1,478,970
無形固定資産合計		5,712,064
投資その他の資産		
投資有価証券		14,943,458
関係会社株式		320,136
投資不動産	1	813,041
長期差入保証金		531,230
前払年金費用		224,272
繰延税金資産		733,199
その他		45,230
貸倒引当金		23,600
投資その他の資産合計		17,586,969
固定資産合計		25,827,017
資産合計		98,159,759

(単位：千円)

第37期中間会計期間  
(令和3年9月30日現在)

(負債の部)		
流動負債		
預り金		663,405
未払金		
未払収益分配金		187,200
未払償還金		7,418
未払手数料		6,029,978
その他未払金		2,623,176
未払費用		5,348,002
未払消費税等	2	757,223
未払法人税等		702,806
賞与引当金		924,214
役員賞与引当金		65,985
その他		5,517
流動負債合計		17,314,927
固定負債		
長期未払金		10,800
退職給付引当金		1,204,214
役員退職慰労引当金		117,938
時効後支払損引当金		256,262
固定負債合計		1,589,215
負債合計		18,904,143
(純資産の部)		
株主資本		
資本金		2,000,131

資本剰余金	
資本準備金	3,572,096
その他資本剰余金	41,160,616
資本剰余金合計	44,732,712
利益剰余金	
利益準備金	342,589
その他利益剰余金	
別途積立金	6,998,000
繰越利益剰余金	23,330,110
利益剰余金合計	30,670,700
株主資本合計	77,403,544

(単位：千円)

## 第37期中間会計期間

(令和3年9月30日現在)

評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	1,852,071
評価・換算差額等合計	1,852,071
純資産合計	79,255,616
負債純資産合計	98,159,759

## (2)中間損益計算書

(単位：千円)

## 第37期中間会計期間

(自 令和3年4月1日

至 令和3年9月30日)

営業収益	
委託者報酬	39,061,243
投資顧問料	1,319,230
その他営業収益	7,249
営業収益合計	40,387,723
営業費用	
支払手数料	15,372,436
広告宣伝費	277,284
公告費	250
調査費	
調査費	1,187,915
委託調査費	7,042,637
事務委託費	653,911
営業雑経費	
通信費	75,781
印刷費	194,857
協会費	25,068
諸会費	9,036
事務機器関連費	1,066,190
その他営業雑経費	649
営業費用合計	25,906,022
一般管理費	
給料	
役員報酬	202,454
給料・手当	2,828,313
賞与引当金繰入	924,214
役員賞与引当金繰入	65,985
福利厚生費	637,293
交際費	2,635

旅費交通費		12,678
租税公課		232,446
不動産賃借料		364,289
退職給付費用		195,737
固定資産減価償却費	1	969,675
諸経費		193,083
一般管理費合計		6,628,807
営業利益		7,852,893

(単位：千円)

## 第37期中間会計期間

(自 令和3年4月1日

至 令和3年9月30日)

営業外収益		
受取配当金		203,195
受取利息		2,567
投資有価証券償還益		753,216
収益分配金等時効完成分		136,491
受取賃貸料		32,904
その他		4,621
営業外収益合計		1,132,996
営業外費用		
投資有価証券償還損		62
時効後支払損引当金繰入		21,921
事務過誤費		66,316
賃貸関連費用	1	7,921
その他		7,123
営業外費用合計		103,345
経常利益		8,882,544
特別利益		
投資有価証券売却益		522,323
特別利益合計		522,323
特別損失		
投資有価証券売却損		8,073
投資有価証券評価損		36,558
固定資産除却損		7,408
特別損失合計		52,039
税引前中間純利益		9,352,828
法人税、住民税及び事業税		2,700,962
法人税等調整額		172,220
法人税等合計		2,873,183
中間純利益		6,479,644

## (3)中間株主資本等変動計算書

第37期中間会計期間（自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	26,951,289	34,291,879	81,024,723
会計方針の変更による累積的影響額							475,687	475,687	475,687

会計方針の変更を反映した当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	27,426,976	34,767,566	81,500,410
当中間期変動額									
剰余金の配当							10,576,511	10,576,511	10,576,511
中間純利益							6,479,644	6,479,644	6,479,644
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計							3,621,178	3,621,178	3,621,178
当中間期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	23,330,110	30,670,700	77,403,544

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,301,606	2,301,606	83,326,329
会計方針の変更による累積的影響額			475,687
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,301,606	2,301,606	83,802,017
当中間期変動額			
剰余金の配当			10,576,511
中間純利益			6,479,644
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	449,534	449,534	449,534
当中間期変動額合計	449,534	449,534	4,070,713
当中間期末残高	1,852,071	1,852,071	79,255,616

## [重要な会計方針]

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

### 3. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5年～50年

器具備品 2年～20年

投資不動産 3年～47年

#### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

### 4. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金  
貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金  
従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
  - (3) 役員賞与引当金  
役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
  - (4) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。  
退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。  
数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。  
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。
  - (5) 役員退職慰労引当金  
役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。
  - (6) 時効後支払損引当金  
時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。
5. 収益および費用の計上基準  
当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。
- (1) 委託者報酬  
投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。
  - (2) 投資顧問料  
顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。
6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
7. その他中間財務諸表作成のための重要な事項
- (1) 連結納税制度の適用  
連結納税制度を適用しております。
  - (2) 「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」の適用  
令和2年度税制改正において従来の連結納税制度が見直され、グループ通算制度に移行する税制改正法（「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号））が令和2年3月31日に公布されておりますが、繰延税金資産の額について、実務対応報告第39号「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」により企業会計基準適用指針第28号「税効果会計に係る会計基準の適用指針」第44項の定めを適用せず、改正前の税法の規定に基づいて算定しております。

#### [ 会計方針の変更 ]

##### （収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当中間会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

た。収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当中間会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、収益認識会計基準等の適用を行う前と比べて、当中間会計期間の中間貸借対照表は、流動負債のその他は588,191千円減少、繰延税金資産は180,104千円減少、繰越利益剰余金は408,087千円増加しております。

当中間会計期間の中間損益計算書は、委託者報酬、営業利益、経常利益及び税引前中間純利益はそれぞれ97,433千円減少しております。

当中間会計期間の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、中間株主資本等変動計算書の繰越利益剰余金の期首残高は475,687千円増加しております。

1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

#### （時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 令和元年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準（企業会計基準第10号 令和元年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、時価算定会計基準等の適用による、中間財務諸表への影響はありません。また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。

### [注記事項]

#### （中間貸借対照表関係）

##### 1 減価償却累計額

	第37期中間会計期間 （令和3年9月30日現在）
建物	661,109千円
器具備品	1,743,773千円
投資不動産	154,845千円

##### 2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。

#### （中間損益計算書関係）

##### 1 減価償却実施額

	第37期中間会計期間 （自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日）
有形固定資産	241,452千円
無形固定資産	728,222千円
投資不動産	3,012千円

#### （中間株主資本等変動計算書関係）

第37期中間会計期間（自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日）

#### 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

## 2. 配当に関する事項

令和3年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	10,576,511千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	49,988円
基準日	令和3年3月31日
効力発生日	令和3年6月29日

## (リース取引関係)

第37期中間会計期間(令和3年9月30日現在)

借主側

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	709,808千円
1年超	354,904千円
合計	1,064,712千円

## (金融商品関係)

第37期中間会計期間(令和3年9月30日現在)

## 1. 金融商品の時価等に関する事項

令和3年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません(注2)参照)。

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 有価証券	1,291,000	1,291,000	-
(2) 金銭の信託	5,301,000	5,301,000	-
(3) 投資有価証券	14,912,098	14,912,098	-
資産計	21,504,098	21,504,098	-

(注1)「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2)市場価格のない株式等

非上場株式(中間貸借対照表計上額31,360千円)は、市場価格がないため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

また、子会社株式及び関連会社株式(中間貸借対照表計上額 関係会社株式320,136千円)は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

なお、中間財務諸表等規則附則(令和3年9月24日内閣府令第9号)に基づく経過措置を適用した投資信託(中間貸借対照表計上額 有価証券 1,291,000千円、投資有価証券14,912,098千円)は、次表には含めておりません。

## 時価をもって中間貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託	-	5,301,000	-	5,301,000
資産計	-	5,301,000	-	5,301,000

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

## 金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## （有価証券関係）

第37期中間会計期間（令和3年9月30日現在）

## 1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 関係会社株式320,136千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

## 2. その他有価証券

	種類	中間貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	18,010,889	15,246,038	2,764,851
	小計	18,010,889	15,246,038	2,764,851
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	3,493,209	3,588,600	95,390
	小計	3,493,209	3,588,600	95,390
合計		21,504,098	18,834,638	2,669,460

（注）「その他」には、中間貸借対照表の「金銭の信託」（中間貸借対照表計上額5,301,000千円、取得価額5,300,000千円）を含めております。  
非上場株式（中間貸借対照表計上額31,360千円）については、市場価格がないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 3. 減損処理を行った有価証券

当中間会計期間において、有価証券について36,558千円（その他有価証券のその他36,558千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、中間期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

## （収益認識関係）

## 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

## （セグメント情報等）

## [セグメント情報]

第37期中間会計期間（自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## [関連情報]

第37期中間会計期間（自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日）



## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第37期中間会計期間 (令和3年9月30日現在)
1株当たり純資産額 (算定上の基礎)	374,587.58円
純資産の部の合計額(千円)	79,255,616
普通株式に係る中間期末の純資産額(千円)	79,255,616
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数(株)	211,581

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第37期中間会計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)
1株当たり中間純利益金額 (算定上の基礎)	30,624.88円
中間純利益金額(千円)	6,479,644
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	6,479,644
普通株式の期中平均株式数(株)	211,581

(注1)潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

(注2)「会計方針の変更」に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を適用し、「収益認識に関する会計基準」第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。この結果、当中間会計期間の1株当たり純資産額は2,248.25円増加し、1株当たり中間純利益金額は319.49円減少しております。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

<更新後>

## (1) 受託会社

名称：三菱UFJ信託銀行株式会社

(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

資本金の額：324,279百万円(2021年9月末現在)

事業の内容：銀行業務および信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (2021年9月末現在)	事業の内容
株式会社三菱UFJ銀行	1,711,958 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社群馬銀行	48,652 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社第四北越銀行	32,776 百万円	銀行業務を営んでいます。
スルガ銀行株式会社	30,043 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社百五銀行	20,000 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社南都銀行	37,924 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社中国銀行	15,149 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社福岡銀行	82,329 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社十八親和銀行	36,878 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社鹿児島銀行	18,130 百万円	銀行業務を営んでいます。
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279 百万円	銀行業務および信託業務を営んでいます。
株式会社熊本銀行	10,000 百万円	銀行業務を営んでいます。
a uカブコム証券株式会社	7,196 百万円 (2021年12月31日現在)	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	48,323 百万円 (2021年12月30日現在)	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
おきぎん証券株式会社	850 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
九州FG証券株式会社	3,000 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
ぐんぎん証券株式会社	3,000 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
岩井コスモ証券株式会社	13,500 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
楽天証券株式会社	17,495 百万円 (2021年12月10日現在)	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
百五証券株式会社	3,000 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
松井証券株式会社	11,945 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	40,500 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

3【資本関係】

## &lt;訂正前&gt;

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。(2021年8月末現在)

三菱UFJ信託銀行株式会社は委託会社の株式の100.0%(211,581株)を所有しています。

(注)関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

## &lt;訂正後&gt;

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。(2022年2月末現在)

三菱UFJ信託銀行株式会社は委託会社の株式の100.0%(211,581株)を所有しています。

(注)関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

# 独立監査人の監査報告書

令和4年3月23日

三菱UFJ国際投信株式会社  
取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 和田 渉  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているスマート・クオリティ・オープン（安定型）の令和3年8月14日から令和4年2月14日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スマート・クオリティ・オープン（安定型）の令和4年2月14日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

令和4年3月23日

三菱UFJ国際投信株式会社  
取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 和田 渉  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているスマート・クオリティ・オープン（安定成長型）の令和3年8月14日から令和4年2月14日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スマート・クオリティ・オープン（安定成長型）の令和4年2月14日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

[次へ](#)

# 独立監査人の監査報告書

令和4年3月23日

三菱UFJ国際投信株式会社  
取締役会 御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 和田 渉  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているスマート・クオリティ・オープン（成長型）の令和3年8月14日から令和4年2月14日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スマート・クオリティ・オープン（成長型）の令和4年2月14日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。



- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

[次へ](#)

# 独立監査人の監査報告書

令和3年6月28日

三菱UFJ国際投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 青木 裕晃 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 鉄也 印

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJ国際投信株式会社の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの第36期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱UFJ国際投信株式会社の令和3年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

# 独立監査人の中間監査報告書

令和3年12月3日

三菱UFJ国際投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 青木 裕晃 印

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 伊藤 鉄也 印

## 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJ国際投信株式会社の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの第37期事業年度の中間会計期間（令和3年4月1日から令和3年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJ国際投信株式会社の令和3年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（令和3年4月1日から令和3年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注)上記は、委託会社が、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは中間監査の対象に含まれていません。